

## 令和 5 年度

- ・うるま市一般会計及び特別会計歳入歳出  
決算並びに基金運用状況審査意見書
- ・うるま市水道事業会計決算審査意見書
- ・うるま市下水道事業会計決算審査意見書

うるま市監査委員



## 目 次

### 令和 5 年度うるま市一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに基金運用状況審査意見書

|                        |    |
|------------------------|----|
| 第1 審査の概要 .....         | 1  |
| 1 審査の対象 .....          | 1  |
| 2 審査の期間 .....          | 1  |
| 3 審査の方法 .....          | 1  |
| 第2 審査の結果 .....         | 1  |
| 1 決算諸表について .....       | 1  |
| 2 決算総括について .....       | 1  |
| 3 一般会計決算について .....     | 2  |
| (1) 決算収支について .....     | 2  |
| (2) 歳入決算について .....     | 2  |
| (3) 歳出決算について .....     | 5  |
| (4) 財政分析 .....         | 8  |
| 4 特別会計決算について .....     | 9  |
| (1) 国民健康保険特別会計 .....   | 9  |
| (2) 介護保険特別会計 .....     | 10 |
| (3) 農業集落排水事業特別会計 ..... | 11 |
| (4) 後期高齢者医療特別会計 .....  | 13 |
| 5 財産に関する調書について .....   | 14 |
| 6 まとめ .....            | 17 |
| (1) 一般会計 .....         | 17 |
| (2) 国民健康保険特別会計 .....   | 17 |
| (3) 介護保険特別会計 .....     | 17 |
| (4) 農業集落排水事業特別会計 ..... | 17 |
| (5) 後期高齢者医療特別会計 .....  | 17 |
| 財政用語の解説 .....          | 18 |

### 注記

- 1 文中及び各表の金額・比率は、原則として表示単位未満を四捨五入したもので、△はマイナスを表します。合計と内訳の計、差引き等が一致しない場合や「0.0%」といった表示があります。
- 2 ポイントとは百分率(%)間の単純差引数値です。
- 3 文中及び各表の符号等の用法は次のとおりです。  
「－」 該当数値のないもの  
「皆増」 前年度に該当数値がなく全額増加したもの  
「皆減」 前年度に該当数値があり全額減少したもの

## 令和 5 年度 うるま市水道事業会計決算審査意見書

|              |    |
|--------------|----|
| 第1 審査の概要     | 19 |
| 1 審査の対象      | 19 |
| 2 審査の期間      | 19 |
| 3 審査の方法      | 19 |
| 第2 審査の結果     | 19 |
| 1 事業概要       | 19 |
| 2 経営成績       | 20 |
| 3 財政状況       | 24 |
| 4 建設投資と施設修繕費 | 25 |
| 5 まとめ        | 28 |
| 水道用語の解説      | 29 |

## 令和 5 年度 うるま市下水道事業会計決算審査意見書

|          |    |
|----------|----|
| 第1 審査の概要 | 30 |
| 1 審査の対象  | 30 |
| 2 審査の期間  | 30 |
| 3 審査の方法  | 30 |
| 第2 審査の結果 | 30 |
| 1 事業概要   | 30 |
| 2 経営成績   | 31 |
| 3 財政状況   | 34 |
| 4 建設投資   | 36 |
| 5 まとめ    | 37 |
| 下水道用語の解説 | 38 |

### 注記(水道事業会計・下水道事業会計共通)

- 文中及び各表の金額・比率は、原則として表示単位未満を四捨五入したもので、△はマイナスを表します。合計と内訳の計、差引き等が一致しない場合や「0.0%」といった表示があります。
- ポイントとは百分率(%)間の単純差引数値です。
- 文中及び各表の符号等の用法は次のとおりです。  
「－」 該当数値のないもの  
「皆増」 前年度に該当数値がなく全額増加したもの  
「皆減」 前年度に該当数値があり全額減少したもの
- 水道事業決算審査意見の「経営指標」とは、「令和 4 年度水道事業経営指標」における、給水人口 10 万人以上 15 万人未満の数値。「年鑑指標」とは、「令和 4 年度地方公営企業年鑑」における給水人口 10 万人以上 15 万人未満から算出した数値。
- 下水道事業決算審査意見の「経営指標」とは、「令和 4 年度下水道事業経営指標・下水道使用料の概要」における団体別類型の数値。「年鑑指標」とは、「令和 4 年度地方公営企業年鑑」から算出した数値。

令和 5 年度

うるま市一般会計及び特別会計歳入歳出  
決算並びに基金運用状況審査意見書

うるま市監査委員



う監 第 130001 号  
令和 6 年 8 月 8 日

うるま市長 中村 正人 様

うるま市監査委員 沢 紙 孝 盛

うるま市監査委員 豊 濱 光 則

うるま市監査委員 佐 久 田 悟

令和5年度うるま市一般会計及び特別会計歳入歳出  
決算並びに基金運用状況審査意見について

地方自治法第233条第2項及び第241条第5項の規定により、審査に付された令和5年度うるま市一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに基金運用状況について審査したので、その結果について意見書を提出します。



# 令和5年度うるま市一般会計及び特別会計 歳入歳出決算並びに基金運用状況審査意見

## 第1 審査の概要

### 1 審査の対象

- (1) 令和5年度うるま市一般会計歳入歳出決算
- (2) 令和5年度うるま市国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- (3) 令和5年度うるま市介護保険特別会計歳入歳出決算
- (4) 令和5年度うるま市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
- (5) 令和5年度うるま市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- (6) 実質収支に関する調書
- (7) 財産に関する調書
- (8) 基金の運用状況を示す書類

### 2 審査の期間

令和6年6月17日～令和6年8月8日

### 3 審査の方法

うるま市監査基準(令和3年監査委員告示第7号)に準拠して、往査、証憑突合、帳簿突合、分析等、通常実施すべき審査手続きを行ったほか、地方自治法(昭和22年法律第67号)第235条の2第1項の規定により実施した例月現金出納検査の結果も考慮しつつ、必要に応じて関係職員からの説明を聴取して審査を実施した。

## 第2 審査の結果

### 1 決算諸表について

審査に付された各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書は、前記の方法により審査した限りにおいて、いずれも関係法令に準拠して適正に調製されているものと認めた。

基金の運用状況を示す書類は、証書類と符合し、適正に表示されているものと認めた。

### 2 決算総括について

公営企業会計を除いたうるま市の一般会計及び特別会計歳入歳出決算を合計すると、次表のとおりである。

| 第1表       |                 | (単位：円、%)        |                 |            |
|-----------|-----------------|-----------------|-----------------|------------|
| 区 分       | 令和4年度           | 令和5年度           | 前年度比較           | 前年度<br>伸び率 |
| 歳 入 総 額   | 101,045,737,101 | 101,150,384,231 | 104,647,130     | 0.1        |
| 歳 出 総 額   | 96,108,509,901  | 97,651,535,982  | 1,543,026,081   | 1.6        |
| 歳入歳出差引額   | 4,937,227,200   | 3,498,848,249   | △ 1,438,378,951 |            |
| 翌年度繰越財源   | 507,864,939     | 581,983,840     | 74,118,901      |            |
| 実 質 収 支 額 | 4,429,362,261   | 2,916,864,409   | △ 1,512,497,852 |            |

※歳入歳出総額は、会計相互間の繰入額、繰出額の重複分を控除した純計額

今年度決算額は、歳入総額が1,011億5,038万円で、前年度と比較して1億465万円(0.1%)の増加となっている。歳出総額は976億5,154万円で、前年度と比較して15億4,303万円(1.6%)の増加となっている。

### 3 一般会計決算について

#### (1) 決算収支について

今年度決算の形式収支額（歳入歳出差引額）は 28 億 254 万円の黒字で、このうち翌年度への繰越財源（5 億 8,198 万円）を控除した実質収支額は 22 億 2,056 万円となっている。また、単年度収支額から黒字要素（積立金）や赤字要素（積立金取崩額）を控除した実質単年度収支額は 23 億 6,393 万円の赤字となっている。

第2表 (単位：円)

| 区 分         | 令和 3 年度        | 令和 4 年度        | 令和 5 年度         | 前年度比較           |
|-------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|
| 歳 入 総 額     | 75,607,629,576 | 76,045,762,639 | 75,482,286,889  | △ 563,475,750   |
| 歳 出 総 額     | 72,172,177,097 | 72,086,687,243 | 72,679,744,725  | 593,057,482     |
| 歳入歳出差引額     | 3,435,452,479  | 3,959,075,396  | 2,802,542,164   | △ 1,156,533,232 |
| 翌年度繰越財源     | 428,329,236    | 507,864,939    | 581,983,840     | 74,118,901      |
| 実 質 収 支 額   | 3,007,123,243  | 3,451,210,457  | 2,220,558,324   | △ 1,230,652,133 |
| 単 年 度 収 支 額 | 1,178,113,758  | 444,087,214    | △ 1,230,652,133 |                 |
| 実質単年度収支額    | 994,032,884    | △ 35,807,764   | △ 2,363,927,154 |                 |

#### (2) 歳入決算について

第3表

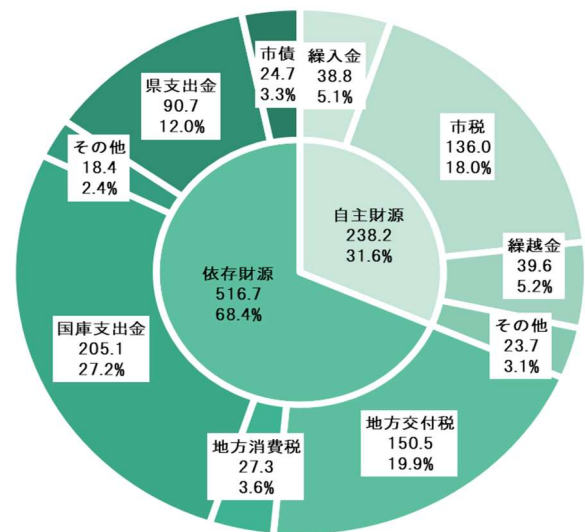
(単位：円、%)

| 区 分   | 予算現額           | 調定額            | 収入済額           | 予算<br>対比      | 調定<br>対比 | 不納欠損額      | 収入未済額         |               |
|-------|----------------|----------------|----------------|---------------|----------|------------|---------------|---------------|
| 令和5年度 | 78,783,460,039 | 77,887,841,808 | 75,482,286,889 | 95.8          | 96.9     | 36,135,239 | 2,374,836,467 |               |
| 令和4年度 | 79,361,825,568 | 78,254,244,007 | 76,045,762,639 | 95.8          | 97.2     | 35,352,685 | 2,813,433,146 |               |
| 比較    | 増 減            | △ 578,365,529  | △ 366,402,199  | △ 563,475,750 | △ 0.0    | △ 2.0      | 782,554       | △ 438,596,679 |
|       | 増減率            | △ 0.7          | △ 0.5          | △ 0.7         |          |            | 2.2           | △ 15.6        |

収入済額は前年度と比較して 5 億 6,348 万円減少し、754 億 8,229 万円となっている。

歳入の科目別構成は次のとおりである。

図 1 一般会計 歳入（財源別）決算表



歳入のうち、自主財源は 31.6%を占めており前年度と比較して 2.2 ポイント伸びているが、地方交付税や国県支出金等の依存財源が 7 割弱を占めている。

## ア) 市税

第4表

(単位：千円、%)

| 区 分       | 令和4年度<br>収入済額 | 令和5年度      |            |        |         | 前年度比較    |       | 収入率   |       |
|-----------|---------------|------------|------------|--------|---------|----------|-------|-------|-------|
|           |               | 調定額        | 収入済額       | 不納欠損額  | 収入未済額   | 増減額      | 伸び率   | R4    | R5    |
| 市 民 税     | 4,967,102     | 5,174,472  | 4,969,887  | 12,410 | 196,236 | 2,785    | 0.1   | 96.4  | 96.0  |
| 個 人       | 4,405,855     | 4,625,495  | 4,430,560  | 11,932 | 184,948 | 24,705   | 0.6   | 96.1  | 95.8  |
| 法 人       | 561,247       | 548,977    | 539,327    | 478    | 11,288  | △ 21,920 | △ 3.9 | 98.7  | 98.2  |
| 固 定 資 産 税 | 7,268,255     | 7,714,660  | 7,569,015  | 8,660  | 138,179 | 300,760  | 4.1   | 97.9  | 98.1  |
| 軽 自 動 車 税 | 521,248       | 564,628    | 527,075    | 3,879  | 33,742  | 5,827    | 1.1   | 93.1  | 93.3  |
| た ば こ 税   | 514,946       | 534,351    | 534,351    | 0      | 0       | 19,405   | 3.8   | 100.0 | 100.0 |
| 入 湯 税     | 3,337         | 3,016      | 3,016      | 0      | 0       | △ 321    | △ 9.6 | 100.0 | 100.0 |
| 合 計       | 13,274,888    | 13,991,127 | 13,603,344 | 24,949 | 368,157 | 328,456  | 2.5   | 97.2  | 97.2  |

※収入済額は還付未済額を含むため収入率が100%を超えることがある

市税収入は前年度と比較して 3 億 2,846 万円 (2.5%) 増加したが、全体の収入率は前年度と同じ 97.2%となった。

増加した税目は、個人市民税が特別徴収の対象となる給与所得者の増加、固定資産税が宅地開発に伴う農地から宅地等への地目変更による課税対象の増や電気通信に係る事業用設備の増加、軽自動車税が新税率適用となる平成 27 年 4 月以降の初年度登録車両の増等による増収、たばこ税が売渡し本数の増に伴う増加となっている。減少した税目は、入湯税が利用客減少による減収、法人市民税が、近年の円安の影響等が要因と見られる事業収益減による減収となっている。

収入未済額は 1,660 万円 (4.7%) 増加し 3 億 6,816 万円、不納欠損額は 602 万円 (19.4%) 減少し 2,495 万円となっている。

## イ) 国庫支出金

第5表

(単位：千円、%)

| 区分    | 令和4年度<br>決 算 額 | 令和5年度      |            |            |         |           | 前年度比較       |        |
|-------|----------------|------------|------------|------------|---------|-----------|-------------|--------|
|       |                | 予 算 額      | 調 定 額      | 決 算 額      | 収入未済額   | 予算額との差額   | 増 減 額       | 比 率    |
| 国庫支出金 | 22,728,224     | 21,856,063 | 21,269,518 | 20,514,319 | 755,199 | 1,341,744 | △ 2,213,905 | △ 9.7  |
| 国庫負担金 | 14,009,604     | 15,036,991 | 14,732,186 | 14,641,127 | 91,059  | 395,864   | 631,523     | 4.5    |
| 国庫補助金 | 8,630,896      | 6,723,115  | 6,437,266  | 5,773,126  | 664,140 | 949,989   | △ 2,857,770 | △ 33.1 |
| 委託金   | 87,724         | 95,957     | 100,066    | 100,066    | 0       | △ 4,109   | 12,342      | 14.1   |

前年度と比較すると、22 億 1,391 万円 (9.7%) の減少となっている。主な要因は、住民税非課税世帯等臨時特別給付金事業補助金の皆減、住民税非課税世帯等電力等価格高騰緊急支援給付事業補助金の皆減によるものである。予算額との差額のうち 6 億 8,298 万円を繰越事業の財源として翌年度へ繰越している。

## ウ) 県支出金

第6表

(単位：千円、%)

| 区分   | 令和4年度<br>決 算 額 | 令和5年度      |           |           |         |           | 前年度比較    |        |
|------|----------------|------------|-----------|-----------|---------|-----------|----------|--------|
|      |                | 予 算 額      | 調 定 額     | 決 算 額     | 収入未済額   | 予算額との差額   | 増 減 額    | 比 率    |
| 県支出金 | 8,347,166      | 10,246,408 | 9,964,225 | 9,072,895 | 891,330 | 1,173,513 | 725,729  | 8.7    |
| 県負担金 | 4,317,967      | 4,696,776  | 4,674,285 | 4,674,285 | 0       | 22,491    | 356,318  | 8.3    |
| 県補助金 | 3,752,322      | 5,320,770  | 5,064,166 | 4,172,836 | 891,330 | 1,147,934 | 420,514  | 11.2   |
| 委託金  | 276,877        | 228,862    | 225,774   | 225,774   | 0       | 3,088     | △ 51,103 | △ 18.5 |

前年度と比較すると、7 億 2,573 万円 (8.7%) の増加となっている。主な要因は、県補助金で沖縄振興特別推進市町村交付金の増によるものである。予算額との差額のうち 6 億 4,636 万円を繰越事業の財源として翌年度へ繰越している。

## エ) 繰入金

第7表

(単位：千円、%)

| 区 分     | 令和4年度<br>決 算 額 | 令和5年度     |           |           | 前年度比較   |      |
|---------|----------------|-----------|-----------|-----------|---------|------|
|         |                | 予 算 額     | 決 算 額     | 予算額との差額   | 増 減 額   | 比 率  |
| 繰 入 金   | 3,420,809      | 4,026,590 | 3,880,138 | △ 146,453 | 459,329 | 13.4 |
| 特別会計繰入金 | 87,347         | 152,219   | 128,810   | △ 23,410  | 41,463  | 47.5 |
| 基金繰入金   | 3,333,462      | 3,874,371 | 3,751,328 | △ 123,043 | 417,866 | 12.5 |

繰入金は前年度と比較して 4 億 5,933 万円増加し、38 億 8,014 万円となっている。増加した分の主な財源は、財政調整基金の取崩しによるものである。

## オ) 市債

第8表

(単位：千円、人)

| 区 分               | 令和4年度      | 令和5年度      | 前年度増減額      |
|-------------------|------------|------------|-------------|
| 市債発行額             | 2,958,438  | 2,465,834  | △ 492,604   |
| 元金償還金             | 4,760,761  | 4,695,395  | △ 65,366    |
| 年度末市債現在高          | 45,976,493 | 43,746,932 | △ 2,229,561 |
| 人口                | 126,023    | 126,454    | 431         |
| 市民1人当たりの市債残高      | 365        | 346        | △ 19        |
| (参考) 市民1人当たりの基金残高 | 157        | 141        | △ 16        |

※人口は各年度末（3月31日）

市債は、令和4年度からの繰越事業分を含め総額 24 億 6,583 万円が発行された。また、発行額が元金償還額を下回ったため前年度と比較して市債現在高は 22 億 2,956 万円減少している。市債を活用した主な事業は具志川小学校校舎増改築事業、沖縄県消防指令センター全体更新等整備事業、城前小学校校舎増改築事業等がある。

市債残高、基金残高を市民一人あたりに換算すると、約 35 万円の借金に対し貯金は 14 万円となり、借金が貯金の 2.5 倍となっている。

## カ) 不納欠損額の状況

第9表

(単位：千円、%)

| 区 分      | 令和4年度<br>決 算 額 | 令和5年度  |       | 前年度増減額  |
|----------|----------------|--------|-------|---------|
|          |                | 決 算 額  | 構 成 比 |         |
| 市 税      | 30,967         | 24,949 | 69.0  | △ 6,019 |
| 分担金及び負担金 | 180            | 615    | 1.7   | 435     |
| 使用料及び手数料 | 195            | 395    | 1.1   | 199     |
| 財 産 収 入  | 0              | 0      | 0.0   | 0       |
| 諸 収 入    | 4,010          | 10,177 | 28.2  | 6,167   |
| 合 計      | 35,353         | 36,135 | 100.0 | 783     |

市税以外の不納欠損額は、法人保育所の利用料、預かり保育・幼稚園の保育料、生活保護費・児童扶養手当返納金、若者就業支援プログラム給付金返還金であり、前年度と比較して 783 万円（2.2%）の増加となった。

キ) 収入未済額の状況

第10表

(単位：千円、%)

| 区 分             | 令和4年度<br>決 算 額 | 令和5年度     |       | 前年度増減額    |
|-----------------|----------------|-----------|-------|-----------|
|                 |                | 決 算 額     | 構 成 比 |           |
| 市 税             | 351,555        | 368,157   | 15.5  | 16,603    |
| 分 担 金 及 び 負 担 金 | 5,968          | 7,873     | 0.3   | 1,905     |
| 使 用 料 及 び 手 数 料 | 20,704         | 15,970    | 0.7   | △ 4,734   |
| 国 庫 支 出 金       | 895,145        | 755,199   | 31.8  | △ 139,946 |
| 県 支 出 金         | 1,265,489      | 891,329   | 37.5  | △ 374,160 |
| 財 産 収 入         | 13,024         | 15,622    | 0.7   | 2,598     |
| 諸 収 入           | 261,548        | 320,685   | 13.5  | 59,137    |
| 合 計             | 2,813,433      | 2,374,836 | 100.0 | △ 438,597 |

収入未済額のうち、国庫支出金と県支出金が69.3%を占め、13億1,173万円が繰越事業の財源に充当されている。諸収入について、生活保護費返納金、あやはし館使用料相当損害金（過年度分）等である。前年度と比較して3億5,287万円（12.5%）の減少となった。

(3) 歳出決算について

第11表

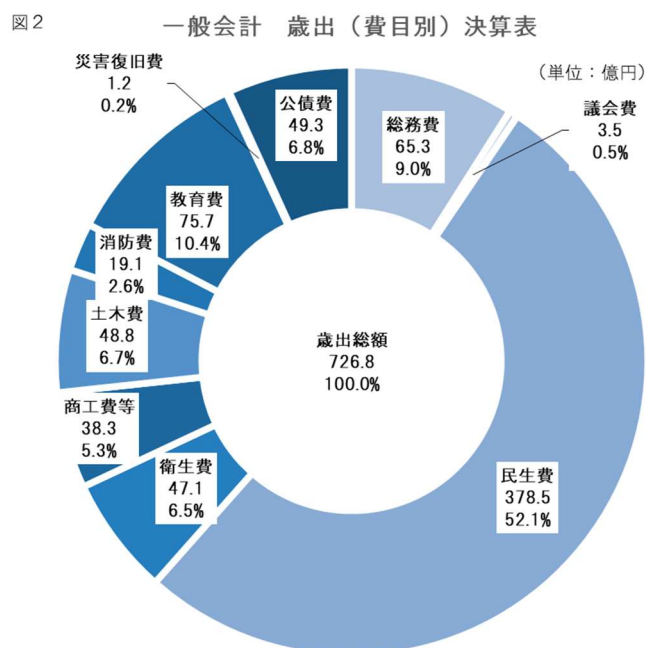
(単位：円、%)

| 区 分   |     | 予算現額           | 支出済額           | 執行率  | 翌年度繰越額        | 不用額           | 予算対比  |
|-------|-----|----------------|----------------|------|---------------|---------------|-------|
| 令和5年度 |     | 78,783,460,039 | 72,679,744,725 | 92.3 | 2,879,725,356 | 3,223,989,958 | 4.1   |
| 令和4年度 |     | 79,361,825,568 | 72,086,687,243 | 90.8 | 3,287,841,039 | 3,987,297,286 | 5.0   |
| 比較    | 増 減 | △ 578,365,529  | 593,057,482    | 1.4  | △ 408,115,683 | △ 763,307,328 | △ 1.0 |
|       | 増減率 | △ 0.7          | 0.8            |      | △ 12.4        | △ 19.1        |       |

歳出決算額は前年度と比較して5億9,306万円（0.8%）増加の726億7,975万円で、執行率は1.4ポイント上昇した。翌年度繰越額は前年度より4億812万円（12.4%）減少の28億7,973万円で、不用額は7億6,331万円（19.1%）減少の32億2,399万円となっている。

ア) 費目別歳出

歳出費目の構成状況をグラフ化すると次のとおりである。



また、今年度の構成比が高い費目順に分類し、前年度と比較すると次表のとおりである。

第12表

(単位：円、%)

| 費 目       | 令和4年度          |       | 令和5年度          |       |        |               |
|-----------|----------------|-------|----------------|-------|--------|---------------|
|           | 決算額            | 構成比   | 決算額            | 構成比   | 前年度比率  | 前年度増減額        |
| 民 生 費     | 36,178,631,039 | 50.2  | 37,854,999,754 | 52.1  | 4.6    | 1,676,368,715 |
| 教 育 費     | 8,517,418,055  | 11.8  | 7,567,836,568  | 10.4  | △ 11.1 | △ 949,581,487 |
| 総 務 費     | 7,040,945,204  | 9.8   | 6,528,155,521  | 9.0   | △ 7.3  | △ 512,789,683 |
| 公 債 費     | 5,002,469,830  | 6.9   | 4,925,004,085  | 6.8   | △ 1.5  | △ 77,465,745  |
| 土 木 費     | 5,811,309,083  | 8.1   | 4,880,995,322  | 6.7   | △ 16.0 | △ 930,313,761 |
| 衛 生 費     | 4,396,160,876  | 6.1   | 4,706,030,362  | 6.5   | 7.0    | 309,869,486   |
| 商 工 費     | 1,939,709,482  | 2.7   | 2,196,622,676  | 3.0   | 13.2   | 256,913,194   |
| 消 防 費     | 1,346,725,900  | 1.9   | 1,906,725,137  | 2.6   | 41.6   | 559,999,237   |
| 農林水産業費    | 1,318,106,557  | 1.8   | 1,523,811,883  | 2.1   | 15.6   | 205,705,326   |
| 議 会 費     | 334,053,921    | 0.5   | 353,542,391    | 0.5   | 5.8    | 19,488,470    |
| 災 害 復 旧 費 | 29,809,142     | 0.0   | 123,446,200    | 0.2   | 314.1  | 93,637,058    |
| 労 働 費     | 171,348,154    | 0.2   | 112,574,826    | 0.2   | △ 34.3 | △ 58,773,328  |
| 合 計       | 72,086,687,243 | 100.0 | 72,679,744,725 | 100.0 | 0.8    | 593,057,482   |

主な費目の増減内容は次のとおりである。

民生費・・・低所得世帯支援給付金(追加給付分)給付事業の皆増、法人保育所運営費の増加

教育費・・・城前小学校校舎増改築事業、与勝第二中学校屋内運動場増改築事業の減少

具志川小学校校舎増改築事業の増加

総務費・・・公共施設等総合管理基金費、財政調整基金費（積立金）の減少

土木費・・・長田団地建替事業、勝連城跡公園整備事業の減少

消防費・・・沖縄県消防指令センター全体更新等整備事業、救助工作車購入事業の増加

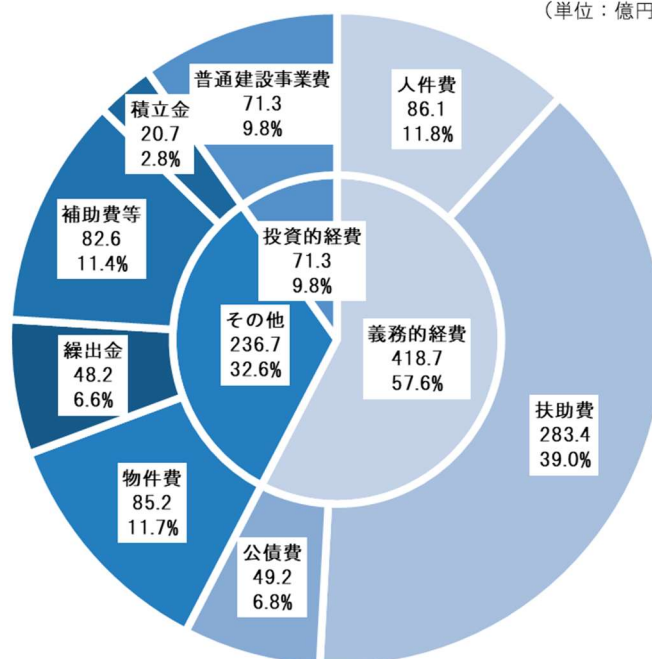
災害復旧費・・・農業施設災害復旧事業の増加

## イ) 性質別歳出

図3

一般会計 歳出（性質別）決算表

(単位：億円)



歳出全体に占める性質別項目の割合は、義務的経費が57.6%、投資的経費が9.8%、その他の経費が32.6%となっている。

前年度と比較して、義務的経費は6.6%（26億130万円）増加しており、その主な要因は、低所得世帯支援給付金（追加給付分）給付事業などの扶助費が増加したことによるものである。投資的経費は17.6%（15億2,247万円）減少しており、その主な要因は、城前小学校屋内運動場増改築事業の皆減等によるものである。その他の経費は2.0%（4億8,578万円）減少しており、その主な要因は、公共施設総合管理基金費（積立金）が減少したことによるものである。

#### ウ）繰越額の状況（令和4年度から令和5年度への繰越）

第13表

| 繰越明許事業（59事業）    | 繰越額           | 左の財源内訳      |             |               |              |             |             |
|-----------------|---------------|-------------|-------------|---------------|--------------|-------------|-------------|
|                 |               | 既収入<br>特定財源 | 未収入特定財源     |               |              |             | 一般財源        |
|                 |               |             | 国庫支出金       | 県支出金          | 市債           | その他         |             |
| 繰越計算書(A)        | 3,287,841,039 | 44,614,010  | 733,255,000 | 1,041,331,100 | 860,300,000  | 145,090,000 | 463,250,929 |
| 繰越予算額(B)        | 3,287,841,039 | 0           | 733,255,000 | 1,041,331,100 | 860,300,000  | 145,090,000 | 507,864,939 |
| 繰越決算額(C)        | 2,933,145,409 | 0           | 692,770,896 | 1,010,333,000 | 653,300,000  | 145,090,000 | 431,651,513 |
| 決算額と予算額の差額(C-B) | △354,695,630  | 0           | △40,484,104 | △30,998,100   | △207,000,000 | 0           | △76,213,426 |
| 執行率(C/B)        | 89.2          |             | 94.5        | 97.0          | 75.9         | -           | 85.0        |

執行率は89.2%で決算額と予算額との差額が3億5,470万円となった。その主な要因はきむたかホール機能強化事業、具志川小学校校舎増改築事業費減によるものである。予定されていた財源は国庫支出金、県支出金、市債がそれぞれ94.5%、97.0%、75.9%の収入率となっている。

#### エ）繰越額の状況（令和5年度から令和6年度への繰越）

第14表

（単位：円）

| 事業           | 翌年度繰越額        | 左の財源内訳      |             |             |             |     |             |
|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|-------------|
|              |               | 既収入<br>特定財源 | 未収入特定財源     |             |             |     | 一般財源        |
|              |               |             | 国庫支出金       | 県支出金        | 市債          | その他 |             |
| 繰越明許事業（56事業） | 2,879,725,356 | 110,817,675 | 682,980,316 | 646,361,200 | 968,400,000 | 0   | 471,166,165 |

令和5年度への繰越明許費は、前年度と比較して3事業、4億812万円減少し28億7,973万円となっている。

#### オ）債務負担行為

第15表

（単位：千円）

| 区分                  | 令和4年度末    | 令和5年度末     | 前年度増減      |
|---------------------|-----------|------------|------------|
| 物件の購入等に<br>係るもの     | 1,132,083 | 19,753,266 | 18,621,183 |
| 債務保証又は損失<br>補償に係るもの | 0         | 0          | 0          |
| その他                 | 6,485,417 | 6,870,906  | 385,489    |
| 合計                  | 7,617,500 | 26,624,172 | 19,006,672 |

今年度の債務負担行為額は、前年度と比較して190億667万円の増加となっている。

カ) 予備費充用の状況

第16表

(単位: 円)

| 区 分    | 令和4年度       | 令和5年度       | 前年度増減       |
|--------|-------------|-------------|-------------|
| 予備費充用額 | 231,544,000 | 371,434,000 | 139,890,000 |

今年度の予備費充用額は、前年度と比較して 1 億 3,989 万円増の 3 億 7,143 万円となっており、約 63%が災害復旧事業（台風被害）への充用である。

(4) 財政分析

本市の財務指標は以下のとおりである。

ア) 経常収支比率

財政構造の弾力性をみる経常収支比率の推移は次表のとおりである。

第17表

(単位: %)

| 区 分    | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 類似団体指数 |
|--------|-------|-------|-------|--------|
| 経常収支比率 | 91.3  | 92.2  | 96.0  | 91.1   |
| うち人件費  | 23.0  | 23.5  | 24.4  | 22.0   |
| 〃 扶助費  | 18.7  | 20.7  | 22.4  | 24.6   |
| 〃 公債費  | 15.8  | 15.2  | 15.0  | 9.5    |

※類似団体指数は、人口や産業構造等により分類された同じ類型に属する都市(沖縄市R4) の値

経常収支比率は、経常経費に充てられた経常一般財源の割合を示し、都市にあっては 75% 程度が妥当とされているが、本市は 96.0%で前年度と比較すると 3.8 ポイント増、類似団体と比較しても高くなっており、財政は硬直化傾向にある。

イ) 財政力指数

標準的な行政活動を行う財源をどのくらい自力で調達できるかを示す財政力指数の推移は次表のとおりである。

第18表

(単位: 千円)

| 区 分                 | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      | 類似団体指数     |
|---------------------|------------|------------|------------|------------|
| 基準財政需要額             | 25,969,123 | 26,533,645 | 27,259,472 | 27,399,227 |
| 基準財政収入額             | 11,777,103 | 12,643,497 | 13,461,107 | 15,688,563 |
| 財政力指数<br>(3 年 平 均 ) | 0.48       | 0.48       | 0.47       | 0.58       |

※類似団体指数は、人口や産業構造等により分類された同じ類型に属する都市(沖縄市R4) の値

増大する行政需要に対し、自主財源である市税等は増加したが、財政力指数は前年度より 0.01 低い 0.47 となり、類似団体指数県内 11 市の平均 0.56 (令和 4 年度決算) よりも低い状態である。

ウ) 公債費負担比率

一般財源総額に対する公債費に充当された一般財源の割合をみる公債費負担比率の推移は次表のとおりである。

第19表

(単位: %)

| 区 分     | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 前年度増減 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 公債費負担比率 | 12.8  | 11.5  | 11.4  | △ 0.1 |

公債費負担比率は、公債費がどの程度一般財源の使途の自由度を制約しているかを示し 15%を超えると警戒ラインとされている。前年度と比較して 0.1 ポイント低下し、県内 11 市の平均 11.1% (令和 4 年度決算) と比較すると高くなっている。

## 4 特別会計決算について

### (1) 国民健康保険特別会計

第20表

(単位：円)

| 区 分         | 令和3年度          | 令和4年度          | 令和5年度          | 前年度比較         |
|-------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 歳 入 総 額     | 16,186,654,618 | 16,152,188,235 | 16,409,447,477 | 257,259,242   |
| 歳 出 総 額     | 15,453,387,620 | 15,694,006,414 | 16,101,393,496 | 407,387,082   |
| 歳入歳出差引額     | 733,266,998    | 458,181,821    | 308,053,981    | △ 150,127,840 |
| 翌年度繰越財源     | 0              | 0              | 0              | 0             |
| 実 質 収 支 額   | 733,266,998    | 458,181,821    | 308,053,981    | △ 150,127,840 |
| 単 年 度 収 支 額 | 127,272,401    | △ 275,085,177  | △ 150,127,840  |               |
| 実質単年度収支額    | 307,272,401    | △ 55,085,177   | △ 628,766,840  |               |

#### ア) 歳入

歳入総額は164億945万円で、前年度と比較して2億5,726万円(1.6%)の増加となった。主な増減として、増加したものは、繰入金が5億9,981万円(40.0%)、県支出金が1億5,421万円(1.4%)となっている。減少したものは、繰越金が2億7,509万円(37.5%)、保険税が2億240万円(8.2%)、諸収入が2,097万円(38.3%)となっている。

#### イ) 国民健康保険税

国民健康保険税の調定額は27億3,347万円で、前年度と比較して2億1,170万円(7.2%)の減少となった。主な要因は、被保険者の課税所得の減等によるものである。

収入済額は22億5,744万円で、前年度と比較して2億240万円(8.2%)の減少となった。収納率は0.9ポイント低下し82.6%で、そのうち現年度分は93.9%、滞納繰越分は24.8%となっている。不納欠損額は4,312万円で、前年度と比較して841万円(24.2%)増加し、収入未済額は4億4,119万円で、前年度と比較して1,937万円(4.2%)減少した。

#### ウ) 歳出

歳出総額は161億139万円で、前年度と比較して4億739万円(2.6%)の増加となった。主な増減として、増加したものは、国民健康保険事業費納付金が3億9,089万円(9.0%)、保険給付費が1億4,933万円(1.4%)となっている。減少したものは、基金積立金が1億2,000万円(54.5%)となっている。

#### エ) 債務負担行為

債務負担行為は、「柔道整復師療養費支給申請書審査委託料」など、11件が設定されている。

#### オ) 国民健康保険加入状況

第21表

(単位：人、世帯)

| 区 分       | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   | 前年度増減   |
|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 被 保 険 者 数 | 36,991  | 35,792  | 34,458  | △ 1,334 |
| 加 入 世 帯 数 | 21,521  | 21,236  | 20,677  | △ 559   |
| 住民基本台帳人口  | 125,570 | 126,023 | 126,454 | 431     |
| 住民基本台帳世帯  | 55,333  | 56,363  | 57,507  | 1,144   |

※住民基本台帳人口は外国人登録人口を含む。 ※各年度3月31日現在

令和5年度末現在の被保険者数は、後期高齢者医療制度等への移行により、前年度より1,334人減少し被保険者数は34,458人となっている。

カ) 一般会計からの繰入金

第22表

(単位：円)

| 区 分                 | 令和4年度         | 令和5年度         | 前年度増減額       |
|---------------------|---------------|---------------|--------------|
| 一 般 会 計 繰 入 金       | 1,500,260,320 | 1,521,430,973 | 21,170,653   |
| 保 険 基 盤 安 定 繰 入 金   | 913,526,971   | 890,434,537   | △ 23,092,434 |
| 未就学児均等割保険税繰入金       | 10,461,256    | 9,873,665     | △ 587,591    |
| 職 員 給 与 等 繰 入 金     | 139,810,000   | 144,800,000   | 4,990,000    |
| 事 務 費 負 担 分 繰 入 金   | 143,782,000   | 170,668,000   | 26,886,000   |
| 産前産後保険税繰入金          | -             | 434,788       | 皆増           |
| 出産育児一時金等繰入金         | 51,303,812    | 61,561,983    | 10,258,171   |
| 財政安定化支援事業繰入金        | 236,956,000   | 236,956,000   | 0            |
| そ の 他 一 般 会 計 繰 入 金 | 4,420,281     | 6,702,000     | 2,281,719    |

一般会計繰入金について、主な増減は、保険基盤安定繰入金の減が保険者支援分（平均保険税算定額）の減少、事務費負担分繰入金は、標準システム保守委託料及び国保共同クラウド使用料等の増加によるものである。出産育児一時金等繰入金の増は支給額1件42万円から50万円への引き上げ及び対象者の増加によるものである。

(2) 介護保険特別会計

第23表

(単位：円)

| 区 分         | 令和3年度          | 令和4年度          | 令和5年度          | 対前年度比較        |
|-------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 歳 入 総 額     | 11,238,313,469 | 11,419,427,567 | 11,891,349,851 | 471,922,284   |
| 歳 出 総 額     | 10,833,855,642 | 10,913,955,691 | 11,513,069,877 | 599,114,186   |
| 歳入歳出差引額     | 404,457,827    | 505,471,876    | 378,279,974    | △ 127,191,902 |
| 翌年度繰越財源     | 0              | 0              | 0              | 0             |
| 実 質 収 支 額   | 404,457,827    | 505,471,876    | 378,279,974    | △ 127,191,902 |
| 単 年 度 収 支 額 | 93,077,173     | 101,014,049    | △ 127,191,902  |               |
| 実質単年度収支額    | 178,534,173    | 171,514,049    | 83,618,098     |               |

ア) 歳入

歳入総額は118億9,135万円で、前年度と比較して4億7,192万円(4.1%)の増加となった。主な要因として、繰入金が1億6,590万円(7.4%)、繰越金が1億101万円(25.0%)、支払基金交付金が8,500万円(3.3%)となっている。

イ) 介護保険料

介護保険料の調定額は22億7,207万円で、前年度と比較して3,229万円(1.4%)の増加となった。主な要因は、被保険者数の増加によるものである。

収入済額は21億6,489万円で、前年度と比較して4,465万円(2.1%)増加となった。収入率は0.6ポイント上昇し95.1%で、そのうち現年度分特別徴収は100%、現年度分普通徴収は89.3%、滞納繰越分普通徴収は21.3%となっている。不納欠損額は2,678万円で前年度と比較して451万円(14.4%)減少し、収入未済額は8,424万円で前年度と比較して829万円(9.0%)減少した。

ウ) 歳出

歳出総額は115億1,307万円で、前年度と比較して5億9,911万円(5.5%)の増加となった。主な要因として、基金積立金が2億4,845万円(53.9%)、保険給付費が2億4,332万円(2.6%)、総務費が4,023万円(14.6%)、となっている。

エ) 債務負担行為

債務負担行為は、「うるま市地域包括支援センター業務委託事業」など、11 件が設定されている。

オ) 一般会計からの繰入金（内訳）

第24表

（単位：円）

| 区 分                            | 令和4年度         | 令和5年度         | 対前年度増減額    |
|--------------------------------|---------------|---------------|------------|
| 一 般 会 計 繰 入 金                  | 1,850,931,000 | 1,908,683,000 | 57,752,000 |
| 介護給付費一般会計繰入金                   | 1,260,680,000 | 1,266,061,000 | 5,381,000  |
| 地域支援事業繰入金<br>(介護予防・日常生活支援総合事業) | 49,789,000    | 54,233,000    | 4,444,000  |
| 地域支援事業繰入金<br>(包括的支援事業・任意事業)    | 52,415,000    | 54,115,000    | 1,700,000  |
| 職員給与費等繰入金                      | 141,274,000   | 145,227,000   | 3,953,000  |
| 事務費繰入金                         | 142,108,000   | 179,327,000   | 37,219,000 |
| その他一般会計繰入金                     | 622,000       | 1,498,000     | 876,000    |
| 低所得者保険料軽減繰入金                   | 204,043,000   | 208,222,000   | 4,179,000  |

繰入金は前年度と比較して 5,775 万円（3.1%）増加した。増加した主な要因は、事務費繰入金が会計年度任用職員の増員に伴う増、保険料改定等に伴うシステム改修委託料の増による 3,722 万円（26.2%）の増加となっている。

カ) 介護保険認定者数・サービス受給者数

第25表

（単位：人）

| 項目                    | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  |
|-----------------------|--------|--------|--------|
| 第 1 号 被 保 険 者 数       | 28,844 | 29,265 | 29,937 |
| 要 介 護 （ 支 援 ） 認 定 者 数 | 5,577  | 5,672  | 5,887  |
| 居宅介護（予防）サービス受給者数      | 43,737 | 45,244 | 46,631 |
| 地域密着型（予防）サービス受給者数     | 7,765  | 7,231  | 7,196  |
| 施設介護サービス受給者数          | 9,403  | 9,030  | 8,826  |

※サービス受給者数は延人数

令和5年度末における本市の65歳以上の人口は29,969人で、前年度に比べて664人増え、高齢化率も0.4%ポイント増加し23.7%となっている（令和5年度版福祉事務所概要（※編集集中）より転記）。今後もこの傾向が続くと考えられることから保険給付費や地域支援事業費は増加することが予測される。

(3) 農業集落排水事業特別会計

農業集落排水事業特別会計は、津堅地区を供用区域とする排水施設の収入・支出を経理する特別会計である。

第26表

（単位：円）

| 区 分         | 令和3年度       | 令和4年度      | 令和5年度      | 対前年度比較     |
|-------------|-------------|------------|------------|------------|
| 歳 入 総 額     | 15,697,290  | 19,144,292 | 34,325,293 | 15,181,001 |
| 歳 出 総 額     | 13,893,836  | 17,237,964 | 29,487,892 | 12,249,928 |
| 歳入歳出差引額     | 1,803,454   | 1,906,328  | 4,837,401  | 2,931,073  |
| 翌年度繰越財源     | 0           | 0          | 0          | 0          |
| 実 質 収 支 額   | 1,803,454   | 1,906,328  | 4,837,401  | 2,931,073  |
| 単 年 度 収 支 額 | △ 1,205,587 | 102,874    | 2,931,073  |            |
| 実質単年度収支額    | △ 1,205,587 | 102,874    | 2,931,073  |            |

#### ア) 歳入

歳入総額は 3,433 万円で、前年度と比較して 1,518 万円 (79.3%) の増加となった。主な増減として、増加したものは、津堅島農業集落排水施設更新実施設計業務にかかる県支出金が 1,071 万円 (302.2%) の増となっている。減少したものは、使用料が 12 万円 (11.4%) となっている。

#### イ) 農業集落排水使用料

収入済額は 93 万円で、前年度と比較して 12 万円 (11.4%) 減少し、収入率は 14.9 ポイント低下し 83.6%となっている。不納欠損はなく収入未済額は 18 万円で、前年度と比較して 17 万円 (1,030.9%) の増加となった。この収入未済は、特別会計から公営企業会計移行に伴い、令和 6 年 3 月 31 日付けで打ち切り決算となったため、例年、4 月以降に収納される 2 月及び 3 月分の使用料が含まれていないためである。

#### ウ) 歳出

歳出総額は 2,949 万円で、前年度に比べ 1,225 万円 (71.1%) の増加となった。主な要因は、津堅島農業集落排水施設更新実施設計業務委託料の増によるものである。

#### エ) 排水設備の普及状況

第27表

| 項 目                                                     | 単位             | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 前年度比較 |
|---------------------------------------------------------|----------------|--------|--------|--------|-------|
| 排 水 管 渠 総 延 長                                           | m              | 6,164  | 6,164  | 6,164  | 0     |
| 年 間 排 除 汚 水 量                                           | m <sup>3</sup> | 9,416  | 10,643 | 10,033 | △ 610 |
| 有 収 水 量                                                 | m <sup>3</sup> | 10,766 | 12,559 | 13,126 | 567   |
| 使 用 世 帯 数                                               | 世帯             | 74     | 73     | 73     | 0     |
| 使 用 可 能 世 帯 数                                           | 世帯             | 235    | 239    | 232    | △ 7   |
| 検 針 栓 数                                                 | 栓              | 63     | 64     | 63     | △ 1   |
| 使 用 人 口                                                 | 人              | 136    | 134    | 136    | 2     |
| 使 用 可 能 人 口                                             | 人              | 375    | 365    | 348    | △ 17  |
| 水洗化率 $(\frac{\text{使用世帯数}}{\text{使用可能世帯数}} \times 100)$ | %              | 31.5   | 30.5   | 31.5   | 1.0   |
| 人口普及率 $(\frac{\text{整備人口}}{\text{行政人口}} \times 100)$    | %              | 100.0  | 100.0  | 100.0  | 0.0   |

令和 5 年度末の使用可能世帯数 232 世帯に対して、使用世帯数は 73 世帯で、使用世帯数に対する水洗化率は 31.5%となっている。使用料の増収につながる検針栓数が 1 件減少し、63 栓となった。なお、使用可能世帯数は 232 世帯であり、使用世帯数と差し引き 159 世帯が未接続となっている。

#### オ) 市債の現在高

第28表

(単位：円)

| 区 分       | 令和4年度末<br>現在高 | 令和5年度     |           |            |
|-----------|---------------|-----------|-----------|------------|
|           |               | 発行額       | 元金償還額     | 年度末現在高     |
| 農業集落排水事業債 | 13,711,371    | 3,200,000 | 1,603,451 | 15,307,920 |

令和 5 年度発行額の内訳は、農業集落排水事業債 140 万円、公営企業会計適用債 180 万円となっている。

(4) 後期高齢者医療特別会計

第29表

(単位：円)

| 区 分             | 令和3年度         | 令和4年度         | 令和5年度         | 対前年度比較      |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|-------------|
| 歳 入 総 額         | 1,070,089,573 | 1,170,279,451 | 1,226,637,090 | 56,357,639  |
| 歳 出 総 額         | 1,062,990,799 | 1,157,687,672 | 1,221,502,361 | 63,814,689  |
| 歳入歳出差引額         | 7,098,774     | 12,591,779    | 5,134,729     | △ 7,457,050 |
| 翌年度繰越財源         | 0             | 0             | 0             | 0           |
| 実 質 収 支 額       | 7,098,774     | 12,591,779    | 5,134,729     | △ 7,457,050 |
| 単 年 度 収 支 額     | 3,424,297     | 5,493,005     | △ 7,457,050   |             |
| 実 質 単 年 度 収 支 額 | 3,424,297     | 5,493,005     | △ 7,457,050   |             |

ア) 歳入

歳入総額は 12 億 2,664 万円で、前年度と比較して 5,636 万円 (4.8%) の増加となっている。主な増減として、後期高齢者医療保険料が 4,460 万円 (5.3%)、繰入金が 1,092 万円 (3.5%) 増加し、諸収入が 466 万円 (85.0%) の減少となっている。

イ) 後期高齢者医療保険料

後期高齢者医療保険料の調定額は 9 億 480 万円で、前年度と比較して 4,569 万円 (5.3%) の増加となった。主な要因は、被保険者の増加によるものである。

収入済額は 8 億 9,221 万円で、前年度と比較して 4,460 万円 (5.3%) 増加、収入率は 0.1 ポイント減少の 98.5%となっている。不納欠損額は 107 万円で、前年度と比較して 71 万円 (202.3%) 増加した。収入未済額は 1,264 万円で、前年度と比較して 67 万円 (5.6%) 増加した。

ウ) 歳出

歳出総額は 12 億 2,150 万円で、前年度と比較して 6,381 万円 (5.5%) の増加となった。増加した主なものは、後期高齢者医療広域連合納付金が 7,164 万円 (6.5%) となっている。

第30表

(単位：人、%)

第30表

(単位:人、%)

| 区 分       |               | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 前年度比較 |
|-----------|---------------|--------|--------|--------|-------|
| 被 保 険 者 数 |               | 12,156 | 12,816 | 13,177 | 361   |
| 参<br>考    | 高齢者人口 (65歳以上) | 28,895 | 29,305 | 29,969 | 664   |
|           | 高 齢 化 率       | 23.0   | 23.3   | 23.7   | 0.4   |

※各年度3月31日現在

被保険者数は前年度と比較して 361 人増加した。市の令和 5 年度末の年齢別人口から、被保険者数は今後、増加が見込まれている。

エ) 債務負担行為

債務負担行為は、「帳票出力外部委託事業」、1 件が設定されている。

## 5 財産に関する調書について

### (1) 公有財産

#### ア) 土地及び建物

第31表

(単位：㎡)

| 区 分     |           | 土 地          |              |           | 建 物        |            |            |
|---------|-----------|--------------|--------------|-----------|------------|------------|------------|
|         |           | 令和4年度末       | 令和5年度末       | 前年度比較     | 令和4年度末     | 令和5年度末     | 前年度比較      |
| 行政財産    | 公 用 財 産   | 48,393.31    | 48,393.31    | 0.00      | 34,079.99  | 34,079.99  | 0.00       |
|         | 公 共 用 財 産 | 2,370,131.94 | 2,384,772.24 | 14,640.30 | 405,572.20 | 404,292.80 | △ 1,279.40 |
| 普 通 財 産 |           | 5,127,504.75 | 5,128,462.51 | 957.76    | 8,089.60   | 9,074.94   | 985.34     |
| 合 計     |           | 7,546,030.00 | 7,561,628.06 | 15,598.06 | 447,741.79 | 447,447.73 | △ 294.06   |

今年度中の土地の増減高は、行政財産が 14,640.30 ㎡、普通財産が 957.76 ㎡それぞれ増加した。主な内容は、行政財産が公園用地の取得、普通財産が具志川幼稚園の用途廃止及び所管替えによるものである。

建物の増減高は、行政財産が 1,279.40 ㎡の減、普通財産が 985.34 ㎡増加した。主な内容は、具志川幼稚園及び南原幼稚園のこども園移行に伴う用途廃止及び所管替えによるものである。

#### イ) 山林

令和 5 年度末の現在高は 3,491,409.76 ㎡で、1,656.00 ㎡減少した。

#### ウ) 無体財産権

令和 5 年度末の商標権の現在高は 14 件で、1 件増加した。

#### エ) 有価証券

令和 5 年度末の現在高は 23,601,500 円で、前年度から変動がない。

#### オ) 出資による権利

令和 5 年度末の現在高は 646,044,200 円で、前年度から変動がない。

### (2) 物品

車両及び重要物品（取得価格又は評価額が 100 万円以上）について、前年度と比較して、車両区分変更を含め 10 台が増加、13 台が減少し、271 台となっているが、廃棄車両として財産売払収入に含まれている車両が減少した台数に含まれていなかった。

重要物品は、高度救命処置用資機材一式など 6 点を新規取得し 390 点となった。

### (3) 債権

令和 5 年度末の現在高は 314,556,155 円で、決算年度中は、地域総合整備資金貸付金及び有効率対策事業貸付金がそれぞれ償還されたことにより 53,525,115 円の減少、石川野球場ネーミングライツ契約が終了したことにより 3,300,000 円の減少となっている。

#### (4) 基金

##### ア) 一般基金

第32表

(単位：円、%)

| 区 分                   | 令和4年度末<br>現在高  | 令和5年度末<br>現在高  | 増減率    | 令和5年度中        |               |
|-----------------------|----------------|----------------|--------|---------------|---------------|
|                       |                |                |        | 積立額           | 取崩額           |
| 財 政 調 整 基 金           | 6,356,773,883  | 5,223,498,862  | △ 17.8 | 1,727,711,979 | 2,860,987,000 |
| 減 債 基 金               | 5,099,386,596  | 5,104,993,346  | 0.1    | 5,606,750     | 0             |
| 地 域 福 祉 基 金           | 31,793,449     | 28,308,449     | △ 11.0 | 0             | 3,485,000     |
| 学校用地取得及び学校施設整備基金      | 35,484,925     | 5,484,925      | △ 84.5 | 0             | 30,000,000    |
| 人 材 育 成 基 金           | 6,639,159      | 6,639,159      | 0.0    | 0             | 0             |
| 地 域 振 興 基 金           | 2,299,944,687  | 2,277,055,876  | △ 1.0  | 50,278,189    | 73,167,000    |
| 津堅島津堅地区土地改良施設基金       | 2,539,129      | 2,539,129      | 0.0    | 0             | 0             |
| 宮城島上原地区土地改良施設基金       | 8,780,374      | 8,780,374      | 0.0    | 0             | 0             |
| こ ども ゆ め 基 金          | 1,038,175,988  | 872,823,988    | △ 15.9 | 0             | 165,352,000   |
| 特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金   | 393,955,941    | 239,870,941    | △ 39.1 | 11,592,000    | 165,677,000   |
| 公 共 施 設 等 総 合 管 理 基 金 | 1,722,291,894  | 1,478,438,894  | △ 14.2 | 90,879,000    | 334,732,000   |
| ふ る さ と 応 援 寄 附 基 金   | 679,369,080    | 686,754,304    | 1.1    | 120,624,224   | 113,239,000   |
| ふ る さ と 農 村 活 性 化 基 金 | 0              | 0              | 0.0    | 0             | 0             |
| 国民健康保険財政調整基金          | 1,200,000,000  | 721,361,000    | △ 39.9 | 100,000,000   | 578,639,000   |
| 介護保険給付費等準備基金          | 492,832,345    | 703,642,345    | 42.8   | 709,525,000   | 498,715,000   |
| 未 買 収 用 地 取 得 基 金     | 20,977,725     | 17,788,725     | △ 15.2 | 0             | 3,189,000     |
| 森 林 環 境 譲 与 税 基 金     | 37,633,000     | 47,241,000     | 25.5   | 9,608,000     | 0             |
| 中原小学校図書整備基金           | 6,000,000      | 4,500,000      | △ 25.0 | 0             | 1,500,000     |
| 石油貯蔵施設立地対策等交付金基金      | 0              | 54,216,000     | 皆増     | 54,216,000    | 0             |
| 農水産業振興戦略拠点施設基金        | 4,000,000      | 8,000,000      | 100.0  | 4,000,000     | 0             |
| 合 計                   | 19,436,578,175 | 17,491,937,317 | △ 10.0 | 2,884,041,142 | 4,828,682,000 |

一般基金の現在高は 174 億 9,194 万円で、前年度と比較して 19 億 4,464 万円減少している。財政調整基金と減債基金の令和 5 年度末の合計残高は 103 億円で、市中期財政計画（令和 3 年度～令和 8 年度）における残高見込み 100 億とほぼ同じ積立額で推移している。

ふるさと応援寄附基金の取崩額 1 億 1,324 万円は、「うるままると音楽祭」、「がんばろう！地域活動元気応援事業」、「がんばろう！通り会元気応援事業」に充当されている。

地域振興基金の取崩額 7,317 万円は、「うるま感動キャンペーン事業」、「海外移住者子弟研修生受入事業」、「島しょ地域空き家活用促進事業」に充当されている。

基金の債券運用結果は、運用額 25 億円で運用益が 1,193 万円となっている。

##### イ) 定額基金

第33表

(単位：円、%)

| 区 分                | 令和4年度末<br>現在高 | 令和5年度末<br>現在高 | 増減率   | 令和5年度中      |            |
|--------------------|---------------|---------------|-------|-------------|------------|
|                    |               |               |       | 積立額         | 取崩額        |
| 国民健康保険高額療養資金貸付基金   | 14,500,000    | 14,500,000    | 0.0   | 13,294,962  | 13,294,962 |
| 介護保険高額介護サービス資金貸付基金 | 1,000,000     | 1,000,000     | 0.0   | 0           | 0          |
| 土 地 開 発 基 金        | 309,976,945   | 310,733,003   | 0.2   | 756,058     | 0          |
| うち現金               | 205,719,999   | 195,991,541   | △ 4.7 | △ 9,728,458 | 0          |
| うち公社貸付             | 104,256,946   | 114,741,462   | 10.1  | 10,484,516  | 0          |
| 合 計                | 325,476,945   | 326,233,003   | 0.2   | 14,051,020  | 13,294,962 |

(a) 国民健康保険高額療養資金貸付基金

この基金は、国民健康保険高額療養資金の貸付けを行うため設置されているもので、基金の額 14,500,000 円で運用されている。今年度の運用状況は、13,294,962 円（129 件）を貸付けし、同額が償還されている。なお、今年度の回転率は 0.92 回であった。

(b) 介護保険高額介護サービス資金貸付基金

この基金は、介護保険高額介護サービス資金の貸付けを行うため設置されているもので、基金の額 1,000,000 円で運用されているが、基金設置後これまで運用実績はない。

(c) 土地開発基金

この基金は、公有地等の先行取得を行い、事業の円滑な執行を図るために設置されている。今年度の運用状況は、貸付償還金が貸付利息を含めて 105,013,004 円を償還し、ヌーリ川公園整備事業用地取得のため土地開発公社へ 114,741,462 円を貸付けた。土地については取得、処分ともになかった。

## 6 まとめ

### (1) 一般会計

令和 5 年度の一般会計決算は、歳入は自主財源である市税が前年度に比べ、3 億 2,846 万円増の 136 億 335 万円となった。主な要因は、市民税が給与所得者の増、固定資産税においては宅地開発に伴う宅地等への変更や電気通信に係る事業用設備が増加したことによるものである。歳出は、支出済額が 726 億 7,974 万円、翌年度への繰越額が 28 億 7,973 万円です予算執行率は 92.3%となっている。前年度と比較すると、支出済額が 5 億 9,306 万円(0.8%)、予算執行率が 1.4 ポイント増加し、繰越額が 4 億 812 万円(12.4%)減少した。

本年度の予算額は、前年度より 6 億円余り減少しており、予算の執行率が、前年度と比較して 1.4 ポイント上昇の 92.3%、不用額が前年度と比較して、19.1 ポイント低下している。

今後とも適切な予算執行に努め、さらなる市民の福祉向上に取り組んでいただきたい。

### (2) 国民健康保険特別会計

国民健康保険特別会計については、7 年連続の黒字決算となっているが、被保険者の減及び課税所得の減等により、保険税収入が約 2 億円減少する中、事業費納付金が約 4 億円増加した。国民健康保険事業の運営主体である沖縄県への事業費納付金が毎年増加していることから、厳しい財政運営が続くものと予測される。引き続き収入対策の強化をはじめ、被保険者の健康づくりを強力に推進し、市民の健康増進に努めていただきたい。

### (3) 介護保険特別会計

介護保険特別会計については、高齢化率の上昇に伴って要介護・要支援認定者が増加したこと、コロナ感染症の 5 類移行に伴い、コロナ禍で減少していたサービスの利用が増加したことにより、給付費が増加となっている。訪問介護や訪問看護、訪問リハビリテーション等で給付が伸びているのに対し、老健施設の短期入所、地域密着型サービスの給付は減少となっている。

第 8 期介護保険事業計画と決算の比較において、令和 5 年度はコロナ感染症の余波や職員不足等によりサービスの提供を縮小した事業所があったため、保険給付費及び地域支援事業費ともに計画を下回っている。今後も令和 6 年度から始まる「うるま市高齢者福祉計画・第 9 期介護保険事業計画」に掲げている各施策の充実に向けて、努めていただきたい。

### (4) 農業集落排水事業特別会計

農業集落排水事業特別会計については、使用料収入が維持管理費の 16.6%しかなく、一般会計からの繰入により事業運営が維持されている状況であるが、今後とも、地域住民の生活環境の維持向上に取り組んでいただきたい。

### (5) 後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療特別会計については、団塊世代の 75 歳到達による加入者数の増加が見込まれており、これに伴う保険給付費の増加により、一般会計の負担増が予想される。今後も沖縄県後期高齢者医療広域連合と連携を図りながら、被保険者の方々が安心して医療サービスを受けられるよう取り組んでいただきたい。

◆ 形式収支 = 歳入決算額－歳出決算額

◆ 実質収支 = 形式収支－翌年度へ繰越すべき財源

◆ 単年度収支 = 当該年度の実質収支－前年度の実質収支

当該年度のみの実質的な収入と支出の差額を意味する

| 区 分      | 前年度の実質収支が黒字 | 前年度の実質収支が赤字 |
|----------|-------------|-------------|
| 単年度収支が黒字 | 新たな剰余金が生じた  | 過去の赤字の解消    |
| 単年度収支が赤字 | 過去の剰余金で補った  | 赤字額の増加      |

◆ 実質単年度収支 = 単年度収支＋財政調整基金積立額＋地方債繰上償還額－財政調整基金取崩額

単年度収支に実質的な黒字要素（財政調整基金積立、繰上償還）を加え、赤字要素（積立金取崩）を除外した場合の単年度収支がどうだったかを検証するもの

◆ 標準財政規模 =  $\frac{\text{基準財政収入額} - (\text{所得割における税源移譲相当額の25\%}) - \text{地方譲与税} - \text{交通安全対策特別交付金}}{100/75} + \text{地方譲与税} + \text{交通安全対策特別交付金} + \text{普通交付税} + \text{臨時財政対策債発行可能額}$

地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう一般財源の規模

◆ 実質収支比率 =  $\frac{\text{実質収支額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$

実質収支の額の適否を判断する指標で、3～5%程度が望ましいとされる

◆ 経常収支比率 =  $\frac{\text{経常経費に充当される経常一般財源}}{\text{経常一般財源の額}} \times 100$

財政構造の弾力性を判断する指標で、比率が低いほど弾力性が大きいことを示す

◆ 公債費負担比率 =  $\frac{\text{公債費充当一般財源}}{\text{一般財源総額}} \times 100$

財政構造の弾力性を判断する指標で、公債費に充当された一般財源の一般財源総額に占める割合で表す比率で、率が高いほど財政運営の硬直性を示す

◆ 財政力指数 =  $\frac{\text{基準財政収入額}}{\text{基準財政需要額}} \quad (3\text{年平均})$

当該団体の財政力（体力）を示す数値で、指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が高い団体とされる

◆ 基準財政収入額

地方公共団体が標準的に収入しうると考えられる地方税等のうち、基準財政需要額に対応する部分の額

◆ 基準財政需要額

地方公共団体が平均的水準で行政を行った場合に要する財政需要を示す額

令和 5 年度

うるま市水道事業会計  
決算審査意見書

うるま市監査委員



う 監 第 130002号  
令 和 6 年 8 月 8 日

うるま市長 中村 正人 様

うるま市監査委員 沢 紙 孝 盛

うるま市監査委員 豊 濱 光 則

うるま市監査委員 佐 久 田 悟

令和5年度うるま市水道事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定による審査に付された令和5年度うるま市水道事業会計決算を審査したので、その結果について意見書を提出します。



## 令和 5 年度 うるま市水道事業会計 決算審査意見

### 第1 審査の概要

#### 1 審査の対象

令和 5 年度うるま市水道事業会計に係る決算(決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、貸借対照表)、事業報告書、証書類、地方公営企業法施行令第 23 条(昭和 27 年政令第 403 号)で定めるその他の書類(キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書、企業債明細書)。

#### 2 審査の期間

令和 6 年 5 月 15 日～令和 6 年 7 月 25 日

#### 3 審査の方法

うるま市監査基準(令和 3 年監査委員告示第 7 号)に準拠して、往査、立会、証憑突合、分析等、通常実施すべき審査手続きを行ったほか、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 235 条の 2 第 1 項の規定により実施した例月現金出納検査の結果も考慮しつつ、関係職員からの説明を聴取して審査を実施した。

### 第2 審査の結果

審査に付された決算、事業報告書、証書類、その他の書類は、前記の方法により審査した限りにおいて、いずれも関係法令に基づき調製され水道事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているものと認められた。

なお、審査結果の概要及び意見は、以下のとおりである。

#### 1 事業概要

表1

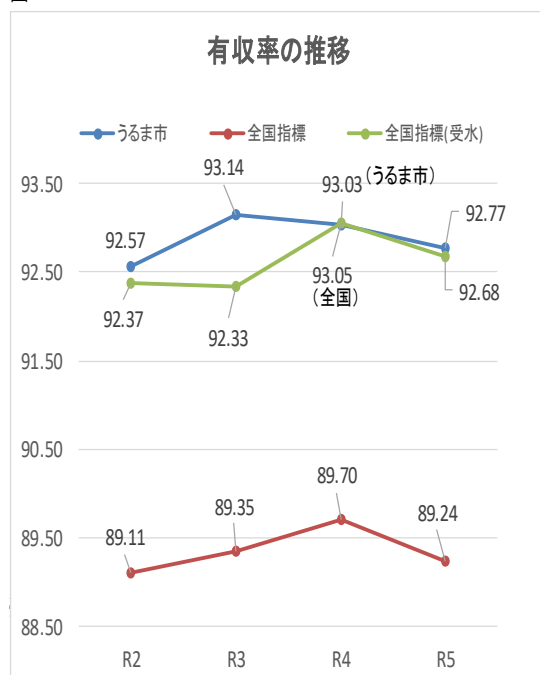
| 区分        | 単位             | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>比率 |
|-----------|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 給 水 戸 数   | 戸              | 46,314     | 46,774     | 47,244     | 470        | 101.00     |
| 給 水 人 口   | 人              | 125,551    | 126,004    | 126,438    | 434        | 100.34     |
| 年 間 配 水 量 | m <sup>3</sup> | 14,108,669 | 14,084,201 | 14,153,847 | 69,646     | 100.49     |
| 年間有収水量    | m <sup>3</sup> | 13,140,868 | 13,101,919 | 13,130,826 | 28,907     | 100.22     |
| 年間無効水量    | m <sup>3</sup> | 648,095    | 665,870    | 699,467    | 33,597     | 105.05     |
| 有 収 率     | %              | 93.14      | 93.03      | 92.77      | △ 0.26     | -          |

今年度末の給水状況は、前年度と比較して、給水戸数が 470 戸増の 47,244 戸、給水人口が 434 人増の 126,438 人、普及率が 0.01 ポイント増の 99.99%となった。

今年度の年間配水量は、前年度と比較して、69,646 m<sup>3</sup>増加の 14,153,847 m<sup>3</sup>、年間有収水量は 28,907 m<sup>3</sup>増加の 13,130,826 m<sup>3</sup>で、有収率は 0.26 ポイント低下し、92.77%となっている。

建設改良工事は、国庫補助事業により市内 5 工区を施工した。これらの工事により送配水管延長は 775,451mで前年度と比較して 72m伸びている。なお、耐震化率は送水管が 27.6%、配水管が 16.2%となっている。

図1



※全国指標(受水)とは、給水人口別及び水源で分類された指標

図2

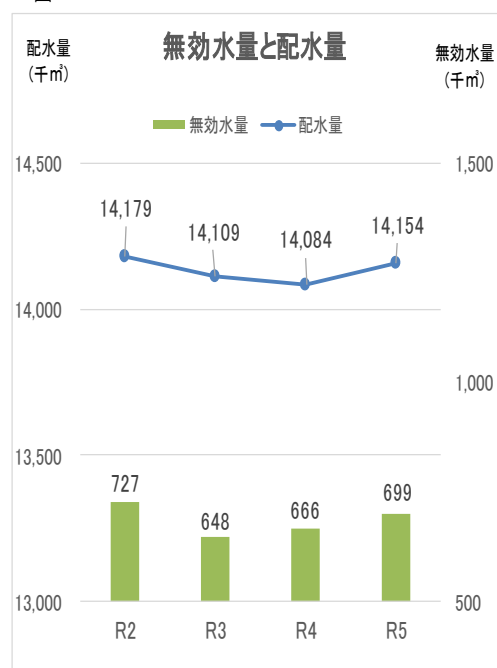


表2

(単位:m³、%)

| 区分   | 令和4年度      |        | 令和5年度      |        | 対前年度<br>増減 | 対前年度<br>比率 |
|------|------------|--------|------------|--------|------------|------------|
|      | 使用水量       | 構成比率   | 使用水量       | 構成比率   |            |            |
| 家庭用  | 10,035,373 | 76.59  | 10,014,532 | 76.27  | △ 20,841   | 99.79      |
| 営業用  | 1,882,502  | 14.37  | 1,927,057  | 14.68  | 44,555     | 102.37     |
| 官公署用 | 509,841    | 3.89   | 536,359    | 4.08   | 26,518     | 105.20     |
| 基地用  | 646,087    | 4.93   | 625,906    | 4.77   | △ 20,181   | 96.88      |
| 臨時用  | 18,703     | 0.14   | 18,741     | 0.14   | 38         | 100.20     |
| 船舶用  | 9,413      | 0.07   | 8,231      | 0.06   | △ 1,182    | 87.44      |
| 計    | 13,101,919 | 100.00 | 13,130,826 | 100.00 | 28,907     | 100.22     |

使用水量について、営業用は、経済活動が回復したことによる増。官公署用は、主に県立中部病院の漏水が要因で増加した。家庭用は節水機器の普及等による減、基地用及び船舶用も使用水量がそれぞれ減少した。臨時用は前年度並みとなっている。

## 2 経営成績

令和5年度の水道事業の総収益は、29億921万円、総費用は26億4,428万円で2億6,492万円の純利益となっている。なお、平成30年度策定の「うるま市水道事業経営戦略」における令和5年度(平成35年度)純利益見込額1億4,167万円を上回っている。

表3

(単位:円、%)

| 区分                  | 令和4年度         | 令和5年度         | 対前年度増減       | 対前年度<br>比率 |
|---------------------|---------------|---------------|--------------|------------|
| 営 業 収 益 (A)         | 2,645,082,899 | 2,665,531,917 | 20,449,018   | 100.77     |
| 営 業 費 用 (B)         | 2,706,029,166 | 2,624,310,642 | △ 81,718,524 | 96.98      |
| 営業利益 (△は損失) (C=A-B) | △ 60,946,267  | 41,221,275    | 102,167,542  | -          |
| 営 業 外 収 益 (D)       | 272,816,462   | 243,628,294   | △ 29,188,168 | 89.30      |
| 営 業 外 費 用 (E)       | 23,231,460    | 19,812,022    | △ 3,419,438  | 85.28      |
| 営 業 外 利 益 (F=D-E)   | 249,585,002   | 223,816,272   | △ 25,768,730 | 89.68      |
| 経 常 利 益 (G=C+F)     | 188,638,735   | 265,037,547   | 76,398,812   | 140.50     |
| 特 別 利 益 (H)         | 25,340        | 48,310        | 22,970       | 190.65     |
| 特 別 損 失 (I)         | 131,914       | 160,966       | 29,052       | 122.02     |
| 総 収 益 (J=A+D+H)     | 2,917,924,701 | 2,909,208,521 | △ 8,716,180  | 99.70      |
| 総 費 用 (K=B+E+I)     | 2,729,392,540 | 2,644,283,630 | △ 85,108,910 | 96.88      |
| 当 年 度 純 利 益 (L=J-K) | 188,532,161   | 264,924,891   | 76,392,730   | 140.52     |

## (1) 収益

今年度の総収益 29 億 921 万円の内訳は、営業収益 26 億 6,553 万円、営業外収益 2 億 4,363 万円、特別利益 4 万 8 千円となっている。

前年度と比較すると、営業収益が 2,045 万円(0.77%)、特別利益が 2 万 3 千円(90.65%)それぞれ増加し、営業外収益が 2,919 万円(10.7%)減少した。主な要因として、営業収益は、水道使用料の増及び水道庁舎等維持管理負担金等(下水道事業負担分)の営業外収益から営業収益への組み換えによるものである。営業外収益は、営業収益への組み換え及び退職給付引当金戻入益の減によるものである。

## (2) 費用

今年度の総費用 26 億 4,428 万円の内訳は、営業費用 26 億 2,431 万円、営業外費用 1,981 万円、特別損失 16 万円となっている。

前年度と比較すると、営業費用が 8,172 万円(3.02%)、営業外費用が 342 万円(14.72%)それぞれ減少し、特別損失が 3 万円(22.02%)の増加となっている。主な要因として、営業費用は、入札不調による工事の中止や耐震化計画策定業務の完了等によるものである。営業外費用は、支払利息の減少によるものである。特別損失は、過年度損益修正損の増加によるものである。

## (3) 経営分析

営業収支比率・経常収支比率比較表

表4

(単位:%)

| 比 率 名  | 算 式                                                                    | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 対前年度<br>増減 | 経営指標   |               |
|--------|------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|------------|--------|---------------|
|        |                                                                        |        |        |        |            | 全国平均   | うち受水を主とする団体平均 |
| 営業収支比率 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$                           | 98.40  | 97.75  | 101.57 | 3.82       | 96.76  | 94.45         |
| 経常収支比率 | $\frac{\text{営業収益}+\text{営業外収益}}{\text{営業費用}+\text{営業外費用}} \times 100$ | 106.73 | 106.91 | 110.02 | 3.11       | 109.99 | 109.27        |

営業収支比率は、101.57%で 100%を上回り、営業収益で営業費用を賄っている良好な状態である。また、営業外活動等を含めた単年度収支の目安となる経常収支比率についても、100%を超えており、営業収支比率とともに経営指標と比較して高い結果となっている。

経営比率の推移

表5

| 比 率 名                | 算 式                                          | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度 | 年鑑指標   |
|----------------------|----------------------------------------------|--------|--------|-------|--------|
| 経営資本営業利益率<br>(%)     | $\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}} \times 100$ | △ 0.30 | △ 0.43 | 0.30  | △ 0.32 |
| 経 営 資 本 回 転 率<br>(回) | $\frac{\text{営業収益}}{\text{経営資本}}$            | 0.18   | 0.19   | 0.19  | 0.09   |
| 営業収益営業利益率<br>(%)     | $\frac{\text{営業利益}}{\text{営業収益}} \times 100$ | △ 1.62 | △ 2.30 | 1.55  | △ 3.41 |

水道事業の経済性を総合的に示す経営資本営業利益率は前年度より0.73ポイント上昇し、投下された資本が十分な効果をあげている。効率性を示す経営資本回転率は前年度と同じ0.19となっており、収益性を示す営業収益営業利益率は前年度より3.85ポイント上昇している。

年鑑指標と比較すると、経営資本回転率は高い数値を示し、経営資本が効率的に営業収益を生み出していることがわかる。経営資本営業利益率及び営業収益営業利益率においても高い結果となっている。

① 施設の利用状況

表6

| 区 分               | 算式又は単位                                                 | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 年鑑指標   |
|-------------------|--------------------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 配 水 能 力           | m <sup>3</sup> /日                                      | 51,750 | 51,750 | 51,750 | 66,028 |
| 1 日 最 大 配 水 量     | m <sup>3</sup> /日                                      | 39,520 | 39,609 | 40,028 | 47,590 |
| 1 日 平 均 配 水 量     | m <sup>3</sup> /日                                      | 38,654 | 38,587 | 38,672 | 40,812 |
| 施 設 利 用 率         | $\frac{\text{1日平均配水量}}{\text{1日配水能力}} \times 100(\%)$  | 74.7   | 74.6   | 74.7   | 61.8   |
| 負 荷 率<br>(※1)     | $\frac{\text{1日平均配水量}}{\text{1日最大配水量}} \times 100(\%)$ | 97.8   | 97.4   | 96.6   | 85.8   |
| 最 大 稼 働 率<br>(※2) | $\frac{\text{1日最大配水量}}{\text{1日配水能力}} \times 100(\%)$  | 76.4   | 76.5   | 77.3   | 72.1   |

※1 1日最大配水量に対する1日平均配水量の割合で施設効率を判断する指標の一つであり、数値が大きいほど効率的であるとされる。

※2 この率が低い場合は、一部の施設が遊休状態にあり、100%に近い場合は安定的な給水に問題があるとされる。

施設の利用状況の良否を示す施設利用率は年鑑指標を上回っており、施設の利用効率は良いといえる。さらに負荷率と最大稼働率をみると、負荷率は年鑑指標を大きく上回り、また最大稼働率から配水能力には十分に余裕があり、季節によって水需要が変動しても水道水の安定供給が可能な状態にあると判断できる。

配水管使用効率比較表

表7

| 区分                          | 算式又は単位                                                      | うるま市    | 沖縄市     | 経営指標  |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------|---------|---------|-------|
| 給 水 人 口                     | 人                                                           | 126,438 | 142,351 | —     |
| 年 間 総 配 水 量                 | 千m <sup>3</sup>                                             | 14,154  | 17,486  | —     |
| 送 配 水 管 延 長                 | km                                                          | 775.45  | 582.81  | —     |
| 配 水 管 100 m 当 たり<br>給 水 人 口 | 人                                                           | 16      | 24      | 19    |
| 配 水 管 使 用 効 率               | $\frac{\text{年間総配水量}}{\text{送配水管延長}} (\text{m}^3/\text{m})$ | 18.25   | 30.00   | 20.35 |

※沖縄市は令和4年度公営企業年鑑「施設・業務概況及び経営分析に関する調」から抜粋

本市は面積が広く送配水管延長が長いため、配水管 100m当たりの給水人口が少なく、配水管使用効率は近隣市や経営指標と比較して低い状況である。

## ① 受水費

表8

| 区 分            | 令和3年度         | 令和4年度         | 令和5年度         | 対前年度増減    |
|----------------|---------------|---------------|---------------|-----------|
| 受 水 費 (円)      | 1,442,470,319 | 1,439,968,711 | 1,447,089,317 | 7,120,606 |
| 総費用に占める割合 (%)  | 53.29         | 52.76         | 54.73         | 1.97      |
| 営業収益に対する割合 (%) | 54.72         | 54.44         | 54.29         | △ 0.15    |
| 有 収 率 (%)      | 93.14         | 93.03         | 92.77         | △ 0.26    |

今年度の受水費(浄水購入費)の増は、営業用水道使用量の増加によるものである。年間総配水量も増加したが、有収率は 0.26 ポイント低下した。また、入札不調による工事中止に伴う工事費等の減により、総費用は減少したため、受水費の占める割合が 1.97 ポイント上昇した。

## ② 供給単価と給水原価

表9

(単位:円、%)

| 区分         | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 経営指標   |                   |
|------------|--------|--------|--------|--------|-------------------|
|            |        |        |        | 全国平均   | うち受水を主とする<br>団体平均 |
| 供給単価 (A)   | 194.87 | 195.46 | 195.57 | 160.75 | 168.12            |
| 給水原価 (B)   | 188.53 | 190.72 | 184.20 | 162.61 | 173.00            |
| 販売益 (A-B)  | 6.34   | 4.74   | 11.37  | △ 1.86 | △ 4.88            |
| 料金回収率(A/B) | 103.36 | 102.49 | 106.17 | 98.85  | 97.18             |

今年度における 1 m<sup>3</sup>当たりの供給単価(195 円 57 銭)は、給水原価(184 円 20 銭)と比較して 1 m<sup>3</sup>当たり 11 円 37 銭の販売益で、料金回収率も、前年度より 3.68 ポイント増加の 106.17%となり、経営指標と比較すると良好な数値を示している。

## ③ 水道料金の収納率

表10

(単位:円、%)

| 年度区分  | 前年度未収額      | 新規調定額<br>及び更正額 | 収納額(※)        | 未収額         | 不納欠損額   | 収納率   | 前年度<br>収納率 |
|-------|-------------|----------------|---------------|-------------|---------|-------|------------|
| 令和5年度 | 262,780,362 | 2,804,369,129  | 2,802,164,032 | 264,281,802 | 723,790 | 91.38 | 91.42      |

※収納額は収納済還付額を控除した額

令和 5 年度水道料金の収納率は、調定総額に対し 91.38%となっている。平成 29 年度以前の 312 件の債権(723,790 円)については、回収不能や所在不明等により、不納欠損処理されている。

## 水道料金の収納先別取扱件数及び手数料

表11

(単位:件、%、円)

| 収納先        | 令和4年度   |       |            | 令和5年度   |       |            | 対前年度増減 |     |           |
|------------|---------|-------|------------|---------|-------|------------|--------|-----|-----------|
|            | 件数      | 割合    | 決算額        | 件数      | 割合    | 決算額        | 件数     | 割合  | 決算額       |
| 金融機関       | 357,404 | 63.6  | 14,991,391 | 360,824 | 64.2  | 16,442,758 | 3,420  | 0.6 | 1,451,367 |
| コンビニ       | 153,169 | 27.2  |            | 164,565 | 29.3  |            | 11,396 | 1.9 |           |
| 集金人(夜間・休日) | 348     | 0.06  |            | 327     | 0.06  |            | △ 21   | -0  |           |
| 営業課窓口      | 24,873  | 4.4   |            | 24,903  | 4.4   |            | 30     | 0.1 |           |
| スマホ決済      | 8,694   | 1.5   |            | 11,610  | 2.1   |            | 2,916  | 0.5 |           |
| 合計         | 544,488 | 100.0 |            | 562,229 | 100.0 |            | 17,741 | -   |           |

※件数(金融機関)は口座振替と窓口払の合計 ※金融機関の手数料単価は郵便局(口座振替)のみ税込、その他は税抜

※手数料決算額は件数×単価に符合しない ※スマホアプリ決済はLINE PAY、Pay Pay

料金の収納方法については、金融機関(口座振替、窓口払)が 64.2%、コンビニ払が 29.3%、営業課窓口払が 4.4%、集金人(夜間・休日)が 0.06%となっている。また、令和 3 年 4 月からスマホ決済サービスが開始されており、その割合は 2.1%となっている。

### 3 財政状況

#### (1) 資産、負債及び資本

表12

(単位:千円、%)

| 区 分   |      | 令和3年度      |           | 令和4年度      |           | 令和5年度      |           | 対前年度      |           |        |
|-------|------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|--------|
|       |      | 金額         | 構成比       | 金額         | 構成比       | 金額         | 構成比       | 増減額       | 増減率       |        |
| 資 産   | 合 計  | 14,575,790 | 100.0     | 14,390,634 | 100.0     | 14,371,299 | 100.0     | △ 19,335  | △ 0.1     |        |
|       | 固定資産 | 11,709,803 | 80.3      | 11,519,623 | 80.0      | 11,969,863 | 83.3      | 450,240   | 3.9       |        |
|       | 流動資産 | 2,865,987  | 19.7      | 2,871,011  | 20.0      | 2,401,436  | 16.7      | △ 469,575 | △ 16.4    |        |
| 負債・資本 | 合 計  | 14,575,790 | 100.0     | 14,390,634 | 100.0     | 14,371,299 | 100.0     | △ 19,335  | △ 0.1     |        |
|       | 負債   | 計          | 6,633,568 | 45.5       | 6,259,880 | 43.5       | 5,975,620 | 41.6      | △ 284,260 | △ 4.5  |
|       |      | 固定負債       | 1,367,138 | 9.4        | 1,160,016 | 8.1        | 977,968   | 6.8       | △ 182,048 | △ 15.7 |
|       |      | 流動負債       | 549,112   | 3.8        | 542,001   | 3.8        | 503,632   | 3.5       | △ 38,369  | △ 7.1  |
|       |      | 繰延収益       | 4,717,318 | 32.4       | 4,557,863 | 31.7       | 4,494,020 | 31.3      | △ 63,843  | △ 1.4  |
|       | 資本   | 計          | 7,942,222 | 54.5       | 8,130,754 | 56.5       | 8,395,679 | 58.4      | 264,925   | 3.3    |
|       |      | 資 本 金      | 6,316,484 | 43.3       | 6,462,317 | 44.9       | 6,609,362 | 46.0      | 147,045   | 2.3    |
|       |      | 剰 余 金      | 1,625,738 | 11.2       | 1,668,437 | 11.6       | 1,786,317 | 12.4      | 117,880   | 7.1    |

それぞれの勘定科目の増減の主な内容については、次のとおりである。

固定資産・・・機械及び装置が流量計等取替工事等による資産の増加及び減価償却等により  
1 億 227 万円の増加、投資有価証券・長期貸付金が 4 億円の増加

流動資産・・・現金預金が下水道への長期貸付等により 4 億 4,450 万円減少、繰越に伴う前払  
金 2,973 万円減少

固定負債・・・企業債・他会計借入金が、未償還残高から流動負債に振替えたことにより 1 億  
7,595 万円の減少、退職給付引当金に対象職員数の減により 609 万円の減少

流動負債・・・未払金 3 千万円の減少、

1 年以内に償還する企業債・他会計借入金が 729 万円の減少

繰延収益・・・減価償却見合い分を収益化するため長期前受金が 6,384 万円の減少

資 本 金・・・議決処分による資本金への繰入れにより 1 億 4,704 万円の増加

剰 余 金・・・減債積立金の取崩し、積立てにより 5,001 万円、未処分利益剰余金が 6,787 万  
円それぞれ増加

#### (2) 資金運用状況

貸借対照表の「固定資産」「固定負債」「資本」の増減額として計上される資金的収支において、令和 5 年度決算における不足額が、どの財源で賄われているかをみるため、1 年間の資産、負債、資本の動きを把握する正味運転資本の資金運用表を作成すると次表のとおりである。

資金運用表

表13

(単位:円)

| 使 途               |               | 源 泉           |               |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|
| 項 目               | 金 額           | 項 目           | 金 額           |
| 建 物 の 取 得         | 48,690,960    | 繰 延 収 益       | 161,548,950   |
| 構 築 物 の 取 得       | 403,458,136   | 減 価 償 却 費     | 548,048,171   |
| 機 械 及 び 装 置 の 取 得 | 146,012,350   | 固 定 資 産 除 却 費 | 5,101,189     |
| 車 両 運 搬 具 取 得     | 2,779,596     | 建設仮勘定への振替     | 64,341,770    |
| 工具器具及び備品の取得       | 2,810,000     | 当 年 度 純 利 益   | 264,924,891   |
| 建設仮勘定の増加          | 63,963,242    | 正味運転資本の減少     | 431,206,156   |
| 企 業 債 の 減 少       | 131,117,267   |               |               |
| 他会計借入金の減少         | 44,836,927    |               |               |
| 有 価 証 券 の 増 加     | 100,000,000   |               |               |
| 長期貸付金の取得          | 300,000,000   |               |               |
| その他投資の増加          | 17,140        |               |               |
| 長期前受金戻入           | 225,391,864   |               |               |
| 退職給付引当金戻入益        | 6,093,645     |               |               |
| 合 計               | 1,475,171,127 | 合 計           | 1,475,171,127 |

※表中の使途及び源泉の項目は流動資産・流動負債に関係する取引を除く

資金的収支の不足額 10 億 6,386 万円は、減債積立金 1 億 3,852 万円、過年度分消費税及び地方消費税資金的収支調整額 2,142 万円、繰越工事資金 1,656 万円のほか、表 13 から全額が損益勘定内部留保資金となる減価償却費や固定資産除却費等で賄われ、さらに正味運転

資本(流動資産-流動負債)が4億3,121万円減少となっている。また、表14から正味運転資本の減少は現金預金の減少によるものである。

正味運転資本増減明細表

表14 (単位:円)

| 増加         |             | 減少           |             |
|------------|-------------|--------------|-------------|
| 項 目        | 金 額         | 項 目          | 金 額         |
| 企業債償還金の減少  | 7,405,689   | 現金預金の減少      | 444,499,585 |
| 未収金の増加     | 3,025,603   | 前払金の減少       | 29,728,000  |
| 貯蔵品の増加     | 1,626,871   | 他会計借入金償還金の減少 | 111,812     |
| 未払金の減少     | 30,193,421  | 引当金の増加       | 228,431     |
| その他流動負債の減少 | 1,110,088   |              |             |
| 正味運転資本の減少  | 431,206,156 |              |             |
| 合 計        | 474,567,828 | 合 計          | 474,567,828 |

### (3) 財務分析

水道事業の財務の短期流動性、長期健全化の良否を示す財務比率は、事業のとおりである。

表15 (単位:%)

| 比 率 名                    | 算 式                                                                                  | 令和4年度  | 令和5年度  | 経営指標   |                 |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|-----------------|
|                          |                                                                                      |        |        | 全国平均   | 受水を主とする<br>団体平均 |
| 流 動 比 率                  | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$                                         | 529.71 | 476.82 | 364.24 | 420.19          |
| 自己資本構成比率                 | $\frac{(\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益})}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$ | 88.17  | 89.69  | 76.37  | 82.68           |
| 固 定 資 産<br>対 長 期 資 本 比 率 | $\frac{\text{固定資産}}{(\text{固定負債} + \text{繰延収益} + \text{資本合計})} \times 100$           | 83.18  | 86.31  | 89.82  | 88.01           |

流動比率は流動資産と流動負債の金額を比較し短期の支払能力を測る指標であり、本市は全国平均と比較して高い状態で推移しており短期の資金繰りは安定している。

自己資本構成比率は、総資本における自己資本の割合を表し高いほど良いとされ、固定資産対長期資本比率は、固定資産が自己資本や固定負債でどの程度調達されているかを表し、100%以下で低い方が望ましいとされる。これらの数値は経営指標と比較して良好であることから、長期的な安定性は高いと判断できる。

## 4 建設投資と施設修繕費

### (1) 建設改良事業等

表16 (単位:円)

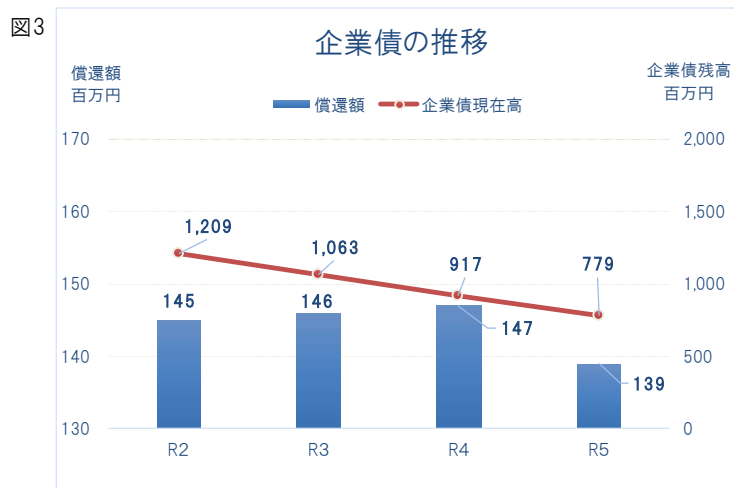
| 区 分       | 令和3年度       | 令和4年度       | 令和5年度       |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 資本的支出の工事費 | 351,985,150 | 205,368,900 | 574,709,300 |
| 収益的支出の工事費 | 93,066,930  | 109,770,100 | 56,382,700  |

建設改良工事費の決算額は5億7,471万円で、前年度と比較すると3億6,934万円(180%)増加し、執行率は88.9%となっている。うるま市水道事業経営戦略で示された令和5年度の投資計画は、9億1,150万円となっており、決算額との乖離は約3.4億円となっている。

うるま市水道事業創設事業(補助事業)は19年目で全体計画に対する進捗率は62.4%となっている。国庫補助事業の工事内容は、令和5年度赤道地内配水管布設工事をはじめ5工区の配水管布設工事及び繰越事業として桃原ポンプ場建設工事(電気・機械)となっている。単独事業の工事内容は、令和5年度与那城西原地内配水管布設工事、ブロック流量計更新工事等が施工されている。

収益的支出の工事の内容は、老朽給水管更新工事2件、給水切替工事2件となっている。

## (2) 企業債



令和5年度末の企業債現在高は7億7,811万円となっている。

支払利息については、1,838万円の前年度と比較すると358万円(16.32%)減少し、総費用に占める支払利息の割合も0.70%で年々減少している。受水を主とし人口が類似する団体の全国平均(1.73%)と比較しても良好である。

平成22年度以降新たな企業債は発行していないが、有効率向上対策事業の財源に充てるため一般会計からの借入金について、今年度の元金償還額は4,473万円で、支払利息は90万円、残高は3億1,366万円となっている。

## (3) 修繕費(給配水施設にかかる修繕)

表17

(単位:円)

| 修繕費<br>(有効率対策分を除く) | 令和3年度      | 令和4年度       | 令和5年度      |
|--------------------|------------|-------------|------------|
|                    | 97,055,504 | 105,029,213 | 97,600,008 |

通常の施設の維持にかかる修繕費は年間1億円前後で推移している。そのうち漏水等にかかる給配水管の修繕費用が令和5年度は67.4%を占めている。

平成26年度から、通常の修繕費のほかに漏水による無効水量を削減すべく有効率向上対策事業を行っている。その効果をまとめると次表のとおりである。

表18

(単位:円、m³)

| 区分         | 平成25年度      | 平成26年度<br>↳<br>令和3年度<br>(合算) | 令和4年度      | 令和5年度      |
|------------|-------------|------------------------------|------------|------------|
| 有効率向上対策修繕費 | -           | 364,938,091                  | 49,575,432 | 47,309,873 |
| 有効率向上対策委託料 | -           | 184,270,000                  | 24,838,000 | 22,660,000 |
| 無効水量       | 1,586,544   | 6,702,848                    | 665,870    | 699,467    |
| 無効水量相当の受水費 | 162,208,258 | 685,299,178                  | 68,078,549 | 71,513,506 |

※無効水量相当の受水費は税抜表示

有効率向上対策事業にかかる平成26年度から令和5年度までの経費は、修繕費と委託料を合わせて6億9,360万円となっている。事業開始前の平成25年度の数値で無効水量が推移していたと仮定すると、令和5年度は無効水量は、平成25年度と比較して55.9%減少し、半分以上となっている。これを受水費に換算すると10年間で8億2,489万円の損失が回避されていることになり、有効率向上対策事業は大きな効果をあげていると判断できる。

#### (4) 施設の経年状況

有形固定資産減価償却率

表19

(単位:%)

| 比率名         | 算式                                                                    | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 対前年度増減 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|--------|
| 有形固定資産減価償却率 | $\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$ | 53.67 | 55.31 | 56.08 | 0.77   |

水道事業用の資産全体では償却が半分以上進んでいる。償却率は減価償却の進展具合と同時に、資産の老朽化を示す指標である。これを資産の種類別にとすると次のとおりである。

種類別有形固定資産減価償却率

表20

(単位:%, 円)

| 資産の種類  | 令和5年度末<br>現在高  | 有形固定資産減価償却率 |       |       |         | 未償却残高          |
|--------|----------------|-------------|-------|-------|---------|----------------|
|        |                | 令和3年度       | 令和4年度 | 令和5年度 | 対前年度増減  |                |
| 建物     | 583,504,807    | 47.23       | 49.05 | 46.62 | △ 2.43  | 311,463,725    |
| 構築物    | 22,878,258,815 | 52.75       | 54.53 | 55.61 | 1.08    | 10,155,858,545 |
| 機械及び装置 | 1,465,509,615  | 70.88       | 70.60 | 66.47 | △ 4.13  | 491,396,633    |
| 車両運搬具  | 18,129,689     | 91.98       | 85.48 | 75.32 | △ 10.16 | 4,475,180      |
| 工具器具備品 | 82,124,124     | 74.98       | 57.38 | 63.99 | 6.61    | 29,569,336     |
| リース資産  | 0              | -           | -     | -     | -       | 0              |

この表から、特に施設更新に多額の費用を要する構築物と機械及び装置の減価償却率が、それぞれ 55.61%、66.47%となっている。さらに構築物の大部分を占める管路の状況を次表に示す。

管路の状況

表21

(単位:%, km)

|                | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 送配水管延長 ①       | 771.6 | 772.8 | 774.1 | 775.4 | 775.5 |
| 法定耐用年数経過管路延長   | 84.6  | 103.0 | 130.2 | 172.5 | 199.1 |
| 対前年度増減         | 84.6  | 18.4  | 27.3  | 42.2  | 26.6  |
| 管路経年化率(%)      | 10.96 | 13.33 | 16.83 | 22.24 | 25.67 |
| 当年度に更新した管路延長 ② | 6.4   | 3.2   | 4.7   | 1.4   | 2.6   |
| 管路更新率(%) ②/①=③ | 0.83  | 0.42  | 0.61  | 0.18  | 0.33  |

令和元年度以降、法定耐用年数 40 年を超過した管路が急激に増えていることがわかる。それに対して管路更新率は低い数値となっている。

## 5 まとめ

令和 5 年度の水道事業決算のうち、損益については、当年度純利益が 2 億 6 千 5 百万円で前年度と比較して 7 千 6 百万円(40.5%)の増額となり、本業となる営業活動から得られる営業利益も 5 年連続損失から利益へと転じているが、営業収益における負担金取扱いの見直しによる増と工事の中止による営業費用の減も影響しているため、次年度以降も注視していく必要がある。

資産については、前年度との比較で、固定資産が 4 億 5 千万円増の 119 億 7 千万円、流動資産が 4 億 7 千万円減の 24 億百万円で、資産合計は 1 千 9 百万円減の 143 億 7 千百万円となっている。

負債については、前年度比較で、固定負債が 1 億 8 千 2 百万円減の 9 億 7 千 8 百万円、流動負債が 3 千 8 百万円減の 5 億 4 百万円、繰延収益が 6 千 4 百万円減の 44 億 9 千 4 百万円で、負債合計は 2 億 8 千 4 百万円減の 59 億 7 千 6 百万円となっている。また、資本については、前年度比較で、資本金が 1 億 4 千 7 百万円増の 66 億 9 百万円、剰余金が 1 億 1 千 8 百万円増の 17 億 8 千 6 百万円で、負債資本合計は 1 千 9 百万円減の 143 億 7 千百万円となっている。

水道事業の健全経営の観点から、日常業務に支障をきたさない範囲で現金預金を確保しておくことは重要で当該現金預金がどのくらいあれば適当なのかについて、一般的には給水収益の 10 ヶ月から 1 カ年分程度を保有しているのが望ましいとされていることなどを踏まえ、「うるま市水道事業経営戦略」では当該現金預金について、『最低 20 億円を確保すること』としている。

令和 2 年度から令和 5 年度における本市の給水収益は、各年度とも 25 億円余りを維持しており、各決算時における現金預金も令和 2 年度から令和 4 年度は 25 億円余りとなっている。令和 5 年度については、21 億円余りとなったが、これは、下水道会計への長期貸付 3 億円を行ったことによるもので、流動比率も対前年度 53 ポイント減少しているが、健全とされる 200%以上の 477%を維持できていることから、本市の水道事業は概ね健全に運営されており良好である。

水道事業は市民の日常生活に欠かせない重要なインフラであり、健全経営の維持に努めると共に、市民サービスの向上に不断の努力を図られたい。

## 水道用語の解説

**営業収支比率** = 営業収益 ÷ 営業費用 × 100

営業活動に要する費用を給水収益などの営業収入でどの程度賄っているかを示す。数値が高いほど経営は安定し、100%未満の場合は営業損失が生じている。

**経常収支比率** = {(営業収益 + 営業外収益) ÷ (営業費用 + 営業外費用)} × 100

経常費用を経常収益でどの程度賄っているかを示す。営業収支比率のほかに財務活動などの営業外収支比率が加味される。数値が高いほど経営は安定し、100%未満の場合は経常損失が生じている。

**経営資本営業利益率** = {(営業利益 - 受託工事利益) ÷ 平均経営資本} × 100

経営資本が、どれだけの営業利益を生み出すことができるかの割合を示す。数値が高いほど少ない資本で多くの営業利益を獲得できることになる。

**経営資本回転率** = (営業収益 - 受託工事収益) ÷ 平均経営資本

収益性を示す指標で、この数値が大きいほど経営資本の効率がよいことになる。

**施設利用率** = (1日平均配水量 ÷ 1日配水能力) × 100

水道施設の経済性を総括的に判断する指標であり、数値が大きいほど効率的であるとされている。

**負荷率** = (1日平均配水量 ÷ 1日最大配水量) × 100

1日最大配水量に対する1日平均配水量の割合で施設効率を判断する指標の1つであり、数値が大きいほど効率的であるとされている。

**最大稼働率** = (1日最大配水量 ÷ 1日配水能力) × 100

この率が低い場合は、一部の施設が遊休状態にあり、100%に近い場合は安定的な給水に問題があると考えられる。

### 資産減耗費

固定資産除却費とたな卸資産除却費があり、固定資産や棚卸資産について滅失や廃棄があった場合にその帳簿価格を除くことを除却といい、除却の際にこれらの資産のうち減価償却費として費用化されていない額について除却費として計上するもの。

### 受水費

沖縄県企業局から購入する水道用水の受水に要する費用

### 有収水量

料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量

### 有収率

配水量における有収水量の割合

### 流動比率

短期債務に対する支払能力を示す。100%以上であることが必要で下回る場合は不良債務が発生していることを表す。

### 固定資産対長期資本比率

固定資産が自己資本や固定負債でどの程度調達されているかを表す。この比率は100%以下で低い方が望ましいとされる。



令和 5 年度

うるま市下水道事業会計  
決算審査意見書

うるま市監査委員



う 監 第 130003号  
令 和 6 年 8 月 8 日

うるま市長 中村 正人 様

うるま市監査委員 沢 紙 孝 盛

うるま市監査委員 豊 濱 光 則

うるま市監査委員 佐 久 田 悟

令和5年度うるま市下水道事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定による審査に付された令和5年度うるま市  
下水道事業会計決算を審査したので、その結果について意見書を提出します。



## 令和 5 年度 うるま市下水道事業会計 決算審査意見

### 第1 審査の概要

#### 1 審査の対象

令和 5 年度うるま市下水道事業会計に係る決算(決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、貸借対照表)、事業報告書、証書類、地方公営企業法施行令第 23 条(昭和 27 年政令第 403 号)で定めるその他の書類(キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書、企業債明細書)

#### 2 審査の期間

令和 6 年 5 月 17 日～令和 6 年 8 月 2 日

#### 3 審査の方法

うるま市監査基準(令和 3 年監査委員告示第 7 号)に準拠して、往査、立会、証憑突合、分析等、通常実施すべき審査手続きを行ったほか、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 235 条の 2 第 1 項の規定により実施した例月現金出納検査の結果も考慮しつつ、関係職員からの説明を聴取して審査を実施した。

### 第2 審査の結果

審査に付された決算、事業報告書、証書類、その他の書類は、前記の方法により審査した限りにおいて、いずれも関係法令に基づき調製され下水道事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているものと認めた。

なお、審査結果の概要及び意見は、以下のとおりである。

#### 1 事業概要

表1

| 区 分                 | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 対前年度  |        | 年鑑指標  |
|---------------------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
|                     |        |        |        | 増減    | 比率     |       |
| 処 理 区 域 内 人 口 ( 人 ) | 84,554 | 84,656 | 84,919 | 263   | 100.31 | -     |
| 水 洗 化 人 口 ( 人 )     | 68,796 | 69,207 | 70,378 | 1,171 | 101.69 | -     |
| 水 洗 化 率 ( % )       | 81.36  | 81.75  | 82.88  | 1.13  | 101.38 | 96.02 |
| 排 水 戸 数 ( 戸 )       | 25,321 | 26,394 | 27,006 | 612   | 102.32 | -     |

令和 5 年度は、前年度と比較して、排水戸数が 612 戸増の 27,006 戸、水洗化人口が 1,171 人増の 70,378 人、水洗化率が 1.13 ポイント増の 82.88%となっているが、年鑑指標と比較すると低い数値となっている。

建設改良工事は令和 4 年度からの繰越事業である豊原処理分区豊原地内下水道工事(第 4 工区)外 4 件を施工した。下水道布設総延長は 404,370m で、うち污水管は 395,173m で前年度と比較して 2,031m 伸びている。雨水管は 9,196m で前年度とほぼ変動がなかった。

表2

| 区 分                            | 令和3年度     | 令和4年度     | 令和5年度     | 対前年度      |        |
|--------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|
|                                |           |           |           | 増減        | 比率     |
| 総 汚 水 処 理 量 ( m <sup>3</sup> ) | 8,583,592 | 8,833,923 | 8,561,326 | △ 272,597 | 96.91  |
| 有 収 水 量 ( m <sup>3</sup> )     | 7,898,338 | 7,978,536 | 8,020,868 | 42,332    | 100.53 |
| 不 明 水 量 ( m <sup>3</sup> )     | 507,490   | 675,030   | 361,808   | △ 313,222 | 53.60  |
| し尿処理・返流水 ( m <sup>3</sup> )    | 177,764   | 180,357   | 178,650   | △ 1,707   | 99.05  |
| 有 収 率 ( % )                    | 92.02     | 90.32     | 93.69     | 3.37      | 103.73 |

※不明水量、し尿処理・返流水は石川処理区のみで、具志川処理区は計測データなし

令和 5 年度の汚水処理状況は、総汚水処理量が 8,561,326 m<sup>3</sup> で、内訳は有収水量 8,020,868 m<sup>3</sup>、不明水量が 361,808 m<sup>3</sup>、し尿処理・返流水が 178,650 m<sup>3</sup> となっており、有収率は 93.69%である。前年度と比較すると、総汚水処理量が 272,597 m<sup>3</sup>、不明水量が 313,222 m<sup>3</sup>、し尿処理・返流水が 1,707 m<sup>3</sup> それぞれ減少し、有収水量が 42,332 m<sup>3</sup>、有収率は 3.37 ポイント増加した。

表3

(単位:m<sup>3</sup>、%)

| 区分    | 令和4年度     |        | 令和5年度     |        | 対前年度     |        |
|-------|-----------|--------|-----------|--------|----------|--------|
|       | 汚水処理量     | 構成比率   | 汚水処理量     | 構成比率   | 増減       | 比率     |
| 家 庭 用 | 5,857,262 | 73.41  | 5,904,142 | 73.61  | 46,880   | 100.80 |
| 業 務 用 | 1,936,405 | 24.27  | 1,966,783 | 24.52  | 30,378   | 101.57 |
| 基 地 用 | 184,869   | 2.32   | 149,943   | 1.87   | △ 34,926 | 81.11  |
| 計     | 7,978,536 | 100.00 | 8,020,868 | 100.00 | 42,332   | 100.53 |

汚水処理量は、前年度と比較して、家庭用、業務用ともに増加しており、新型コロナに感染するリスクが減少したことに伴い経済活動が回復してきたことや新築件数の増加が主な要因となっている。基地用については、基地内に居住する軍人等の変動による減少が主な要因と考えられる。

## 2 経営成績

令和 5 年度の下水道事業の総収益は 24 億 7,038 万円、総費用は 23 億 1,758 万円で、1 億 5,279 万円の純利益となっている。

表4

(単位:円、%)

| 区分                  | 令和4年度           | 令和5年度           | 対前年度増減       | 対前年度比率 |
|---------------------|-----------------|-----------------|--------------|--------|
| 営 業 収 益 (A)         | 963,798,796     | 973,968,551     | 10,169,755   | 101.1  |
| 営 業 費 用 (B)         | 2,191,001,045   | 2,158,289,983   | △ 32,711,062 | 98.5   |
| 営業利益 (△は損失) (C=A-B) | △ 1,227,202,249 | △ 1,184,321,432 | 42,880,817   | —      |
| 営 業 外 収 益 (D)       | 1,533,990,281   | 1,495,563,335   | △ 38,426,946 | 97.5   |
| 営 業 外 費 用 (E)       | 174,555,880     | 158,545,811     | △ 16,010,069 | 90.8   |
| 営 業 外 利 益 (F=D-E)   | 1,359,434,401   | 1,337,017,524   | △ 22,416,877 | 98.4   |
| 経 常 利 益 (G=C+F)     | 132,232,152     | 152,696,092     | 20,463,940   | 115.5  |
| 特 別 利 益 (H)         | 944,758         | 843,532         | △ 101,226    | 89.3   |
| 特 別 損 失 (I)         | 317,113         | 746,783         | 429,670      | 235.5  |
| 総 収 益 (J=A+D+H)     | 2,498,733,835   | 2,470,375,418   | △ 28,358,417 | 98.9   |
| 総 費 用 (K=B+E+I)     | 2,365,874,038   | 2,317,582,577   | △ 48,291,461 | 98.0   |
| 当 年 度 純 利 益 (L=J-K) | 132,859,797     | 152,792,841     | 19,933,044   | 115.0  |

### (1) 収益

総収益は、24 億 7,038 万円で、前年度と比較して、営業収益が 1,017 万円増の 9 億 7,397 万円、営業外収益が 3,843 万円減の 14 億 9,556 万円、特別利益が 10 万円減の 84 万円となっている。

営業収益の増加は、主に下水道使用料及び石川地域し尿処理負担金の増によるもので、営業外収益の減少は、污水管渠工事費の減と下水道接続補助金の減に伴う一般会計からの基準外繰入金の減が要因となっている。特別利益は、過年度損益修正益の減少によるものである。

### (2) 費用

総費用は、23 億 1,758 万円で、前年度と比較して、営業費用が 3,271 万円減の 21 億 5,829 万円、営業外費用が 1,601 万円減の 1 億 5,855 万円、特別損失が 43 万円増の 75 万円となっている。

営業費用が減少した主な要因は、公共樹更新工事等の減、有形固定資産の減価償却当年度額等の減少によるものである。営業外費用の減は、企業債利息の減少、特別損失は、過年度損益修正損によるものである。

### (3) 経営分析

表5

(単位: %)

| 比 率 名  | 算 式                                                                        | 令和3年度  | 令和4年度  | 令和5年度  | 対前年度<br>増減 | 年鑑指標  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|------------|-------|
| 営業収支比率 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$                               | 37.00  | 43.99  | 45.13  | 1.14       | 66.31 |
| 経常収支比率 | $\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ | 105.80 | 105.59 | 106.59 | 1.00       | 98.10 |
| 総収支比率  | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$                                 | 105.43 | 105.62 | 106.59 | 0.97       | 98.28 |

営業収支比率は、前年度と比較して、1.14 ポイント増の 45.13%となっているが、表 8 の経費回収率(使用料処理単価に対する汚水処理原価)が 71.17%となっていることから、下水道使用料を主とする営業収益で営業費用を賄いきれず、年鑑指標と比較しても低い結果となっている。一方で、経常収支比率、総収支比率のいずれも 100%を上回っており、年鑑指標との比較でも高い結果となっている。

### ① 施設の利用状況(石川処理区)

表6

| 区 分         | 算式又は単位                                                    | 令和3年度     | 令和4年度     | 令和5年度     |
|-------------|-----------------------------------------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 計 画 処 理 能 力 | m <sup>3</sup> /日                                         | 11,000    | 11,000    | 11,000    |
| 晴天時1日平均処理量  | m <sup>3</sup> /日                                         | 8,460     | 8,110     | 7,230     |
| 晴天時処理能力     | m <sup>3</sup> /日                                         | 8,850     | 8,850     | 8,850     |
| 施設利用率       | $\frac{\text{晴天時1日平均処理量}}{\text{晴天時処理能力}} \times 100(\%)$ | 95.59     | 91.64     | 81.69     |
| 汚 水 処 理 量   | m <sup>3</sup>                                            | 2,620,862 | 2,779,788 | 2,460,460 |
| 有 収 水 量     | m <sup>3</sup>                                            | 2,113,372 | 2,104,758 | 2,098,652 |
| 不 明 水 量     | m <sup>3</sup>                                            | 507,490   | 675,030   | 361,808   |
| 有 収 率       | $\frac{\text{有収水量}}{\text{汚水処理量}} \times 100(\%)$         | 80.64     | 75.72     | 85.30     |

不明水量について、令和 4 年度は対前年度 33%増加していたが、令和 5 年度は降雨量が前年度より少なかったことや不明水対策工事を行ったことで、46.4%減少した。

## ② 流域下水道維持管理負担金(具志川処理区)

表7

(単位:円)

| 区分           | 令和3年度       | 令和4年度       | 令和5年度       | 対前年度増減    |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 流域下水道維持管理負担金 | 318,171,150 | 323,218,555 | 325,721,880 | 2,503,325 |

※ 消費税込み

流域下水道維持管理負担金は、中城湾流域下水道を利用している関係市町村が、污水处理費用として県に納付する負担金で、前年度と比較して污水处理量が増加したことにより当該負担金が増となった。

## ③ 使用料単価と污水处理原価

表8

(単位:円、%)

| 区分            | 令和4年度   | 令和5年度   | 対前年度   |        | 経営指標   |
|---------------|---------|---------|--------|--------|--------|
|               |         |         | 増減     | 比率     |        |
| 使用料単価 (A)     | 105.50  | 106.75  | 1.25   | 101.18 | 153.02 |
| 污水处理原価 (B)    | 151.49  | 150.00  | △ 1.49 | 99.02  | 157.00 |
| 利益 (A - B)    | △ 45.99 | △ 43.25 | 2.74   | 94.04  | △ 3.98 |
| 経費回収率 (A / B) | 69.64   | 71.17   | 1.53   | 102.20 | 97.46  |

※ 経営指標は、各団体を処理区域内人口等で類型化された平均値

令和 5 年度における1m<sup>3</sup> 当たりの污水处理原価 150 円に対し、使用料単価は 106 円 75 銭で、差引き1m<sup>3</sup> 当たり 43 円 25 銭の損失が生じている。

経費回収率は 1.53 ポイント増加しているが、経営指標と比較すると低い状態である。

## ④ 下水道料金の収納率

表9

(単位:円、%)

| 年度区分  | 前年度未収額      | 新規調定額<br>及び更正額 | 収納額(※)      | 未収額         | 不納欠損額   | 収納率   | 前年度<br>収納率 |
|-------|-------------|----------------|-------------|-------------|---------|-------|------------|
| 令和5年度 | 173,821,347 | 937,824,947    | 938,637,304 | 172,843,697 | 165,293 | 84.45 | 83.62      |

※収納額は収納済還付額を控除した額

令和 5 年度の下水道料金は、調定総額 9 億 3,782 万円に対し収納額は 9 億 3,864 万円て収納率 84.45%となっている。また、平成 30 年度以前の未収分 16 万 5,293 円(208 件)が回収不能や所在不明等により不納欠損額として処理されている。

## ⑤ うるま市公共下水道接続促進事業補助金

表10

| 区分         | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|------------|-------|-------|-------|
| 新規排水戸数 (戸) | 516   | 557   | 612   |
| 補助件数 (件)   | 98    | 93    | 65    |
| 補助金額 (千円)  | 9,550 | 8,900 | 6,250 |

うるま市公共下水道接続促進事業補助金は、下水道整備区域内で下水道への接続を行う市民に対し、当該工事に要する費用の一部を補助する事業である。昨年度に比べ補助件数は 28 件減の 65 件、補助金額は 265 万円減少し、625 万円となっている。

### 3 財政状況

#### (1) 資産、負債及び資本

資産、負債及び資本比較表

表11 (単位:千円、%)

| 区 分       |       | 令和4年度      |       | 令和5年度      |       | 対前年度      |       |
|-----------|-------|------------|-------|------------|-------|-----------|-------|
|           |       | 金額         | 構成比   | 金額         | 構成比   | 増減額       | 増減率   |
| 資 産       | 合 計   | 34,291,711 | 100.0 | 34,225,592 | 100.0 | △ 66,119  | △ 0.2 |
|           | 固定資産  | 33,674,650 | 98.2  | 33,050,177 | 96.6  | △ 624,473 | △ 1.9 |
|           | 流動資産  | 617,061    | 1.8   | 1,175,415  | 3.4   | 558,354   | 90.5  |
| 負 債 ・ 資 本 | 合 計   | 34,291,711 | 100.0 | 34,225,592 | 100.0 | △ 66,119  | △ 0.2 |
|           | 計     | 32,617,948 | 95.1  | 32,399,036 | 94.7  | △ 218,912 | △ 0.7 |
|           | 固定負債  | 9,532,916  | 27.8  | 9,398,223  | 27.5  | △ 134,693 | △ 1.4 |
|           | 流動負債  | 1,106,341  | 3.2   | 1,243,678  | 3.6   | 137,337   | 12.4  |
|           | 繰延収益  | 21,978,691 | 64.1  | 21,757,135 | 63.6  | △ 221,556 | △ 1.0 |
|           | 計     | 1,673,763  | 4.9   | 1,826,556  | 5.3   | 152,793   | 9.1   |
|           | 資 本 金 | 975,371    | 2.8   | 1,103,579  | 3.2   | 128,208   | 13.1  |
|           | 剰 余 金 | 698,392    | 2.0   | 722,977    | 2.1   | 24,585    | 3.5   |

それぞれの勘定科目の増減の主な内容については、次のとおりである。

固定資産・・・全体として、有形固定資産での建物が処理場建物の長寿命化、構築物が下水道管路の工事完了、機械及び装置が処理場用電気設備への振替等による増、無形固定資産では、施設利用権の増等あったが、減価償却累計と合わせると 6 億 2,447 万円の減となっている。

流動資産・・・現金預金が水道事業会計からの長期借入や起債償還日の翌年度(4 月 1 日支払)へのずれ込みにより 4 億 1,430 万円の増、前払金が 1 億 4,697 万円の増、未収金は、292 万円減となっている。

固定負債・・・企業債が未償還残高から流動負債に振り替えたことによる 8 億 5,519 万円の減と建設改良事業債等の新規借入 4 億 2,050 万円の増、うるま市水道事業会計からの長期借入 3 億円の増等で、全体として 1 億 3,469 万円の減

流動負債・・・1 年以内に償還する企業債が 2,889 万円の減、未払金 1 億 6,707 万円の増等により全体で 1 億 3,734 万円の増

繰延収益・・・減価償却見合い分を収益化するため長期前受金が 2 億 2,156 万円の減

資本金・・・・・・1 億 2,821 万円の増

剰余金・・・・・・利益剰余金が 2,458 万円の増

#### (2) 資金運用状況

貸借対照表の「固定資産」「固定負債」「資本」の増減額として計上される資本的収支において、令和 5 年度決算における不足額がどの財源で賄われているかをみるため、1 年間の資産、負債、資本の動きを把握する正味運転資本の資金運用表を作成すると次表のとおりである。

表12

(単位:円)

| 使 途                   |               | 源 泉               |               |
|-----------------------|---------------|-------------------|---------------|
| 項 目                   | 金 額           | 項 目               | 金 額           |
| 建 物 の 取 得             | 24,365,271    | 繰 延 収 益           | 598,625,888   |
| 構 築 物 の 取 得           | 617,416,087   | 企 業 債             | 420,500,000   |
| 機 械 及 び 装 置 の 取 得     | 21,236,093    | 減 価 償 却 費         | 1,255,076,909 |
| 工 具 器 具 及 び 備 品 の 取 得 | 4,455,500     | 資 産 減 耗 費         | 273,458       |
| 車 両 運 搬 具 の 取 得       | 11,000        | 建 設 仮 勘 定 へ の 振 替 | 158,356,137   |
| 建 設 仮 勘 定 の 増 加       | 96,786,388    | 過 年 度 損 益 修 正 損   | 635,068       |
| 無 形 固 定 資 産 の 増 加     | 25,606,583    | 固 定 資 産 売 却 代 金   | 8,200         |
| 企 業 債 の 減 少           | 855,193,274   | 当 年 度 純 利 益       | 152,792,841   |
| 長 期 前 受 金 戻 入         | 819,687,550   | 他 会 計 借 入 金       | 300,000,000   |
| 過 年 度 損 益 修 正 益       | 493,959       |                   |               |
| 正 味 運 転 資 本 の 増 加     | 421,016,796   |                   |               |
| 合 計                   | 2,886,268,501 | 合 計               | 2,886,268,501 |

資本的収支の不足額 6 億 4,665 万円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1,163 万円、繰越工事資金 1 億 5,092 万円、減債積立金 1 億 3,286 万円のほか、表 12 から全額が内部留保資金となる減価償却費等で賄われ、さらに正味運転資本(流動資産-流動負債)が 4 億 2,102 万円の増加となっている。

表 13 より正味運転資本の増加は、現金預金と前払金の増加によるものである。

表13

(単位:円)

| 増加            |             | 減少                |             |
|---------------|-------------|-------------------|-------------|
| 項 目           | 金 額         | 項 目               | 金 額         |
| 現 金 預 金 の 増 加 | 414,303,067 | 未 払 金 の 増 加       | 167,070,776 |
| 前 払 金 の 増 加   | 146,971,000 | 未 収 金 の 減 少       | 2,919,967   |
| 企 業 債 の 減 少   | 28,887,513  | 正 味 運 転 資 本 の 増 加 | 421,016,796 |
| 引 当 金 の 減 少   | 402,587     |                   |             |
| 預 り 金 の 減 少   | 443,372     |                   |             |
| 合 計           | 591,007,539 | 合 計               | 591,007,539 |

### (3) 財務分析

表14

(単位:%)

| 比 率 名                 | 算 式                                                                            | 令和4年度  | 令和5年度  | 年鑑指標   |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|
| 流 動 比 率               | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$                                   | 55.77  | 94.51  | 73.43  |
| 自 己 資 本 構 成 比 率       | $\frac{(\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{繰延収益})}{\text{負債}+\text{資本合計}} \times 100$ | 68.97  | 68.91  | 63.69  |
| 固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率 | $\frac{\text{固定資産}}{(\text{固定負債}+\text{繰延収益}+\text{資本合計})} \times 100$         | 101.47 | 100.21 | 101.19 |

流動比率は、流動資産と流動負債の金額を比較し短期の支払能力を測る指標である。今年度は、水道事業からの 3 億円の長期借入や企業債償還金(簡保分約 1 億 730 万円)が翌年度の 4 月 1 日支払いとなったことで流動資産が増加し流動比率も 94.51%と高い値となっている。

自己資本構成比率は、総資本における自己資本の割合が高いほど良いとされており、本市は 68.91%で前年度より 0.06 ポイント低下しているが、年鑑指標よりは、高い結果となっている。

固定資産対長期資本比率は、固定資産の取得に要した長期資本(自己資本や固定負債)の占める割合を表すものでその割合が 100%以下で低い方が望ましいとされている。本市は 100%を超えているがこれは固定資産の一部が一時借入金等の流動資産によって取得されていることによるものである。

## 4 建設投資

### (1) 建設改良事業等

令和 5 年度における建設改良工事費の決算額は 5 億 4,531 万円で、執行率は 40.95%、令和 6 年度へ 7 億 6,582 万円を繰越している。

主な工事内容は令和 4 年度からの繰越事業である豊原処理分区豊原地内下水道工事、安慶名第 2 雨水幹線整備工事等を実施している。

収益的支出の工事費の決算額は 6,929 万円で工事の内容は公共枮や污水管、雨水幹線の修繕などとなっている。

### (2) 企業債

図 1

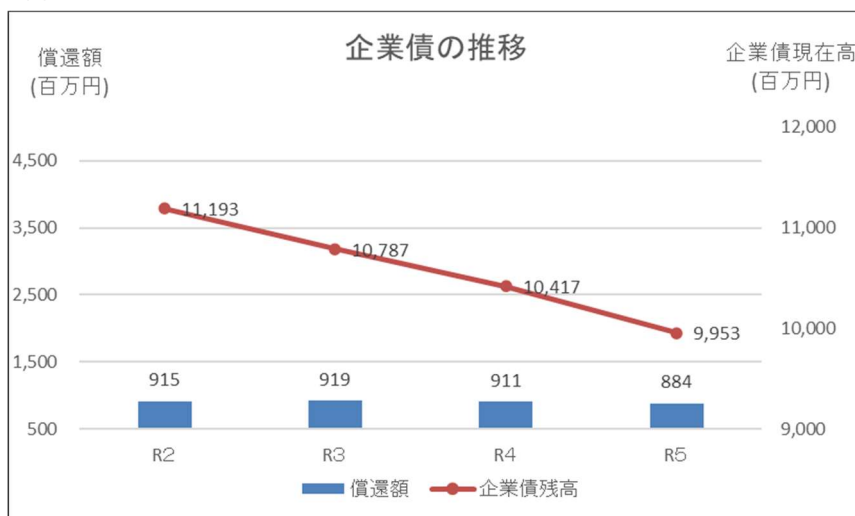


表15

(単位：円)

| 区 分               | 令和4年度末<br>現在高  | 令和5年度       |             |               |
|-------------------|----------------|-------------|-------------|---------------|
|                   |                | 発行額         | 元金償還額       | 年度末現在高        |
| 公 共 下 水 道 事 業 債   | 6,785,188,940  | 160,300,000 | 595,151,927 | 6,350,337,013 |
| 流 域 下 水 道 事 業 債   | 1,224,524,159  | 27,800,000  | 113,655,984 | 1,138,668,175 |
| 資 本 費 平 準 化 債(※1) | 1,648,001,916  | 180,000,000 | 111,281,248 | 1,716,720,668 |
| 特 別 措 置 分(※2)     | 721,647,090    | 52,400,000  | 57,881,628  | 716,165,462   |
| 公 営 企 業 会 計 適 用 債 | 37,635,000     | 0           | 6,110,000   | 31,525,000    |
| 合 計               | 10,416,997,105 | 420,500,000 | 884,080,787 | 9,953,416,318 |

※1 先行投資が大きく下水道供用開始当初の高い処理原価の負担を軽減するために発行される企業債

※2 後年度償還金を地方交付税で繰り延べる措置として創設された企業債

令和 5 年度末の企業債現在高は 99 億 5,342 万円となっている。

新規発行額は公共下水道事業債が 1 億 6,030 万円、流域下水道事業債が 2,780 万円、資本費平準化債が 1 億 8,000 万円、特別措置分が 5,240 万円となっている。

元金償還額は 8 億 8,408 万円で、前年度と比較すると、2,698 万円(2.96%)減少している。

支払利息は 1 億 5,103 万円で、前年度と比較すると 1,155 万円(7.10%)減少しており、総費用に占める支払利息の割合は 6.52%となっている。

## 5 まとめ

令和 5 年度の下水道事業決算のうち、損益については、当年度純利益が 1 億 5 千 3 百万円で前年度と比較して、2 千万円(15.0%)の増額となっているが、営業収益で営業費用を賄うことはできず、11 億 8 千 4 百万円の営業損失となっている。

資産は、前年度と比較して、固定資産が 6 億 2 千 4 百万円減の 330 億 5 千万円、流動資産が 5 億 5 千 8 百万円増の 11 億 7 千 5 百万円で、資産合計は 6 千 6 百万円減の 342 億 2 千 6 百万円となっている。

負債は、前年度と比較して、固定負債が 1 億 3 千 5 百万円減の 93 億 9 千 8 百万円、流動負債が 1 億 3 千 7 百万円増の 12 億 4 千 4 百万円、繰延収益が 2 億 2 千 2 百万円減の 217 億 5 千 7 百万円で、負債合計は 2 億 1 千 9 百万円減の 323 億 9 千 9 百万円となっている。また、資本については、前年度と比較して、資本金が 1 億 2 千 8 百万円増の 11 億 4 百万円、剰余金が 2 千 5 百万円増の 7 億 2 千 3 百万円で、負債資本合計は 6 千 6 百万円減の 342 億 2 千 6 百万円となっている。

下水道事業の供用開始から令和 6 年度で 50 年になる。法定耐用年数が 50 年とされている污水管の更新時期にきていることに加え、その他の関連施設の老朽化などへの対応も迫られている。

令和 4 年 4 月分から家庭用と業務用の下水道使用料が増額改定されたことにより、使用料収入は増となっているが、財政運営の面で厳しい状況が続くことに変わりはなく、今後とも、効率的かつ効果的な事業運営に取り組む必要がある。

下水道事業は、市民生活の環境改善を始め、河川や海域の良好な水質の保全に欠くことのできないものとなっており、今後とも厳しい経営環境に対処しつつ、市民サービスの向上に努めていきたい。

## 下水道用語の解説

$$\text{営業収支比率} = \text{営業収益} \div \text{営業費用} \times 100$$

営業活動に要する費用を下水道使用料などの営業収入でどの程度賄っているかを示す。数値が高いほど経営は安定し、100%未満の場合は営業損失が生じている。

$$\text{経常収支比率} = \{(\text{営業収益} + \text{営業外収益}) \div (\text{営業費用} + \text{営業外費用})\} \times 100$$

経常費用を経常収益でどの程度賄っているかを示す。営業収支比率のほかに財務活動などの営業外収支比率が加味される。数値が高いほど経営は安定し、100%未満の場合は経常損失が生じている。

$$\text{有収率} = (\text{有収水量} \div \text{総汚水処理量}) \times 100$$

処理した汚水のうち使用料徴収の対象となる有収水の割合。数値が大きいほど使用料徴収の対象とできない不明水が少なく効率的であるとされている。

$$\text{水洗化率} = (\text{水洗化人口} \div \text{処理区域内人口}) \times 100$$

処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水を処理している人口の割合。

$$\text{使用料単価} = (\text{下水道使用料収入} / \text{有収水量}) \times 100$$

有収水量1m<sup>3</sup> 当たりの使用料収入であり、使用料の水準を示す。

$$\text{汚水処理原価} = (\text{汚水処理費}(\text{公費負担分を除く}) / \text{有収水量}) \times 100$$

有収水量1m<sup>3</sup> 当たりの汚水処理費であり、その水準を示す。汚水処理費は、維持管理費と資本費とに分けられる。

### 経費回収率

使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料でまかなえているかを表した指標であり、使用料水準を表することができる。数値が100%以下の場合は、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われていることを意味するため、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減が必要である。

### 自己資本構成比率

総資本の中に占める自己資本の割合を示し、大きいほど健全である。

